



1  
日書

小社 606

文部省検定済教科書  
教育資料室  
贈呈

小学生の社会  
世界をつなぐもの  
6上

坂西志保編

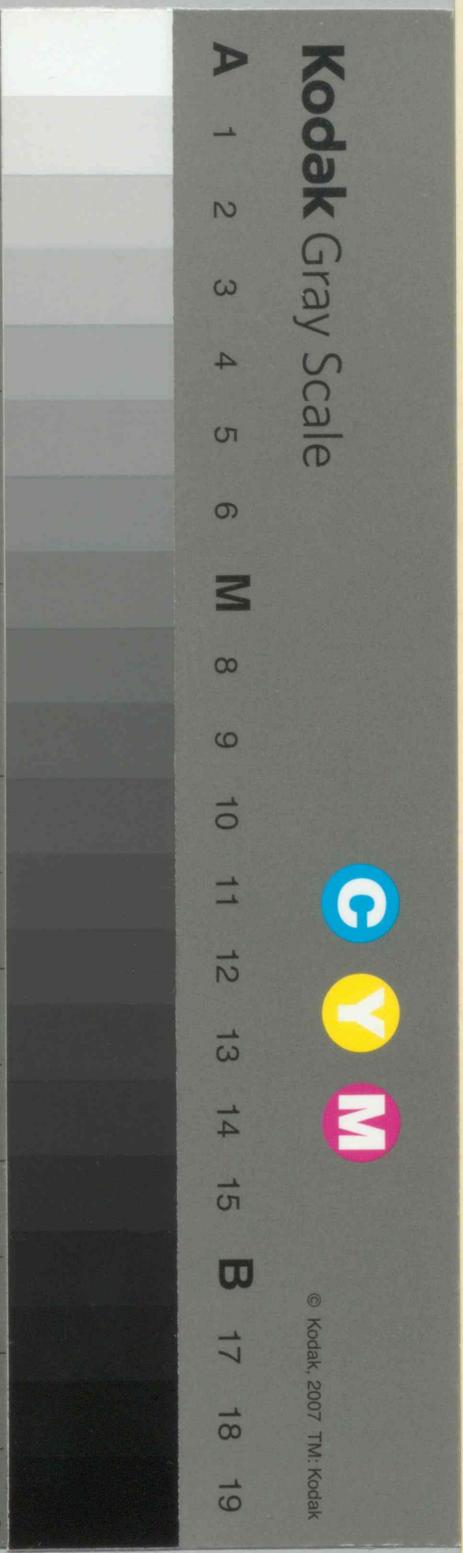
日本書籍

教  
3  
013

60025

教科書文庫

5.
300.
34-1950
01304 49992



教科書文庫  
6  
301  
34-1950  
0130449992

昭和 年 月 日  
文 部 省 検 定 済  
小 学 校 社 会 科 用

小学生の社会  
世界を  
つなぐもの

6上

広島大学図書  
0130449992



広島大学  
教育學部

広島大学図書  
0130449992

中央図書館

指導者の方々へ

一 「世界をつなぐもの 上」は、文部省の学習指導要領  
社会科編(一)、および小学校社会科学習指導要領補説に  
も、とづいて編さんした六年用社会科教科書の上巻です。  
二 この本でとりあげた学習のねらいと内容は、だいたい  
次の通りです。  
(イ)現代のわれわれの生活が、通信の発達によって世界の  
国々ときわめて密接なつながりをもつようになったこ  
とを理解させます。そのため、とくに今日われわれの  
生活に対しきわめて重要な役割をもち、われわれの毎  
日の生活と切りはなすことのできない「新聞とラジオ」  
につき、主としてその編集発行、また放送といった活  
動面を中心として叙し、興味を喚起し、理解と自発的  
学習へ導くことを期しています。  
(ロ)交通通信の発達により、世界各国の関係はますます緊  
密となり、日本と世界のつながりはあらゆる面で深く  
なっています。そこで、わが国とくに関係の深い  
国々——今日としては民主国家として直接学ぶべき国  
国を加えて、その特色を主として社会生活の面から  
理解させるのです。そのため、今日わが国と最も関係  
の深いアメリカを中心とし、イギリス、スイス等(指

導要領により中国にも言及してあります)につき、興  
味ある児童の研究活動の構想によって叙し、興味を喚  
起し、児童の自発活動を促すようにしました。これに  
よって外国および外国人に対する正しい認識をもち、  
私たち日本人も、民主的な世界人類の一員として、彼  
我ががいに尊敬し、自他の幸福をねがい、進んで世界  
平和の確立と世界文化の進展に寄与するように導くこ  
とを期しています。  
(ハ)これら学習の間におりませ、家庭、隣人、地域社会か  
ら、世界的なひろがりをもつ社会生活にまで発展した  
六年間の社会科学習をまとめる意味で、現在の社会の  
当面する課題と、その解決としての将来の発展を考え  
させ、認識させるように仕組んであります。  
一 別にこの本の周辺に予想される学習活動を、各章末に  
「調査と研究」と題して列挙しました。これらの学習活  
動に限らず、この本で暗示的にかつふれられなかった点  
など、指導者において発展的にとりあつかわれ、それぞ  
れの地域の特殊性に立脚して、この本を十分に活用して  
いただきたいと思ひます。  
一 この本に引用した統計資料は、主として次のものによ  
りました。  
日本統計年鑑 日本国勢図会 理科年表



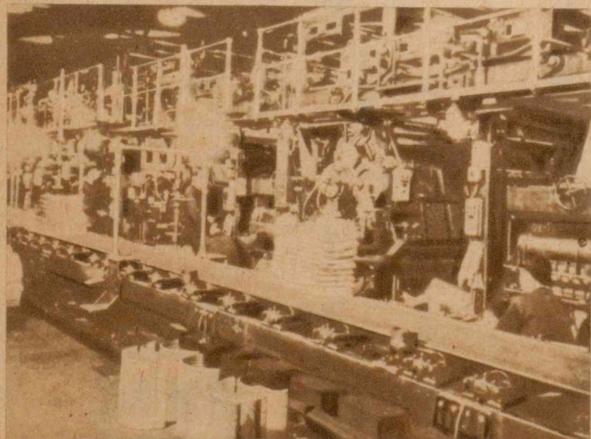
校 閲



文 選



鉛版鑄造機

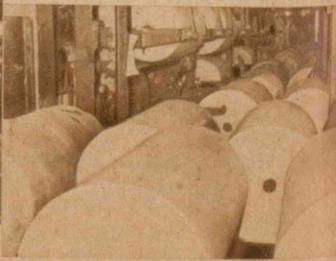


輪 転 機

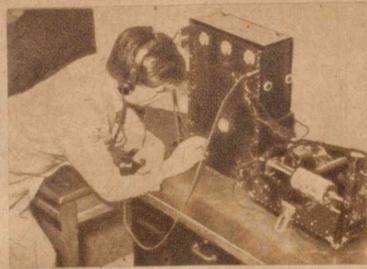
大 組



紙 型



巻取紙



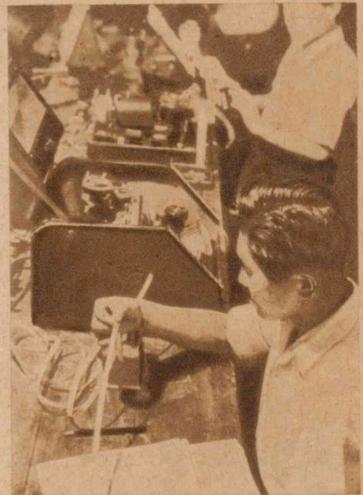
電 送 写 真 機



無 線 通 信



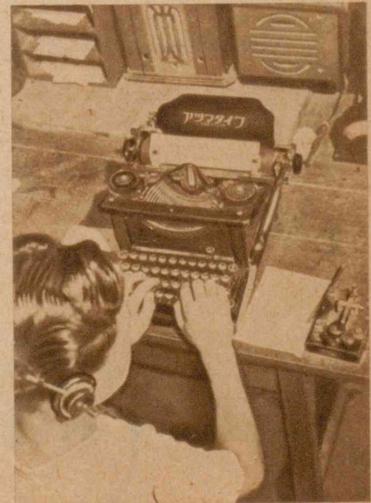
編 集 局



テ レ タ イ プ



資 料 室



電 信

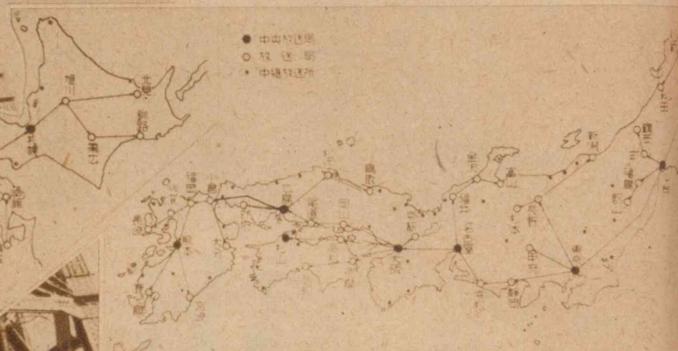
新 聞 の 出 来 る ま で (日本新聞協会提供)

# 放送がきこえるまで

(日本放送協会提供)



鉄塔(川口放送所)



放送局と中継線



実況放送↑



主調整室↑



合唱

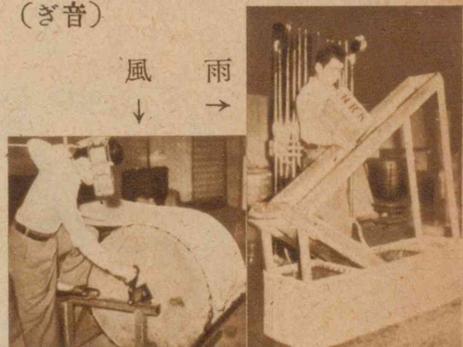
(子どもの時間)

放送劇

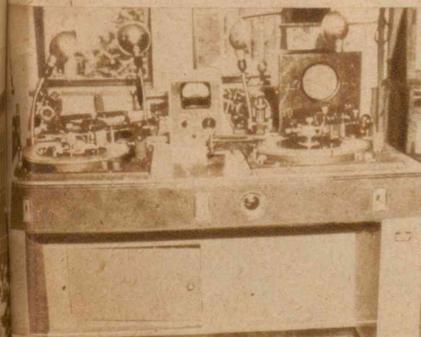


(ぎ音)

風 ↓ 雨 →



副調整室



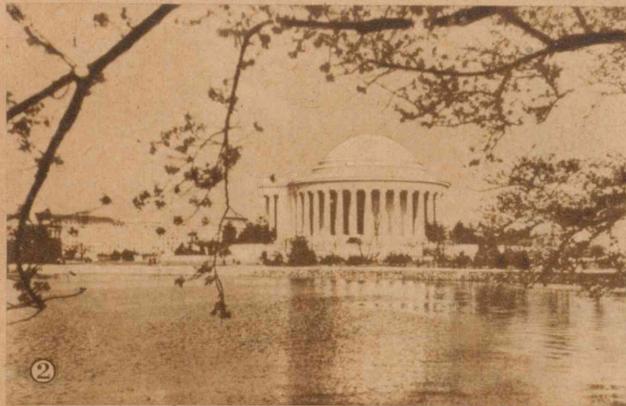
録音機

放送会館(東京)



街頭録音→





②



③



①

## ワシントン

①ワシントン  
記念碑

②ジェフ  
ソン記念堂

③市街

④ホワイト  
ハウス

④ (U.S.I.S. 提供)

## ニュー ヨーク

①マンハッタン  
区

②ブルックリン  
橋

③ウォール街

④エンバイヤ・ステート  
ビルディング



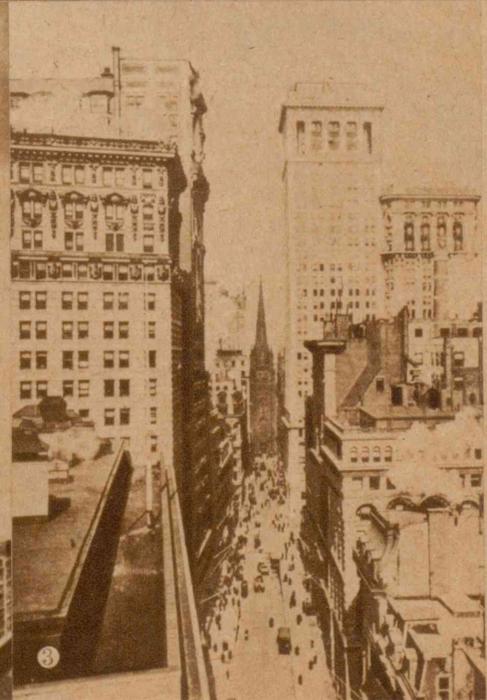
①



②



④



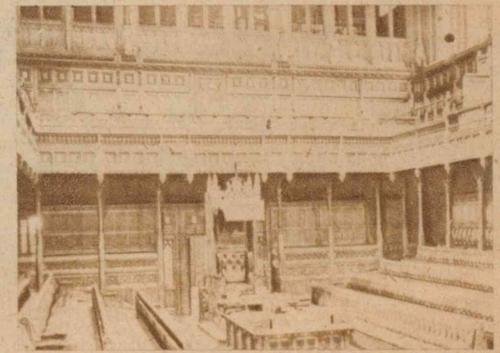
③

6

# ロンドン



議事堂



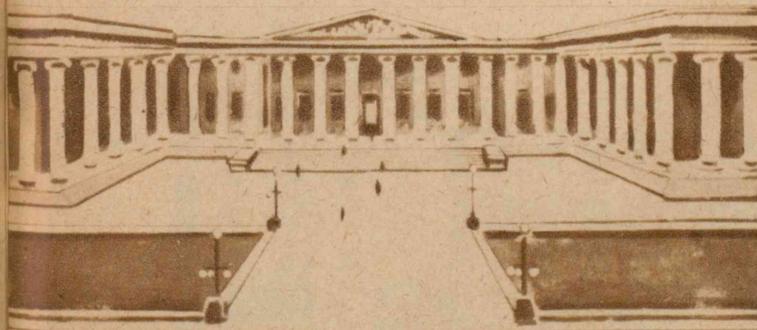
議事堂の内部



ウェストミンスター寺院



警官



大英博物館

## 1

### ニュースの世界

一	目と耳の延長	10
二	ニュースとは何か	16
三	新聞の発達	23
四	新聞の種類	27
五	新聞社の組織	34
六	ラジオと私たち	40
七	新聞の責任	47
八	新聞と私たち	57

## 2

### 海のかなた

一	七時のニュース	65
二	太平洋をこえて	73
三	新大陸から	80
四	アメリカの子ども	90
五	よい隣人	97
六	ニューヨーク研究報告会	108
七	世界の議会の母	126
八	平和の国	131
九	日本の将来	141

もくろく

## 一 目と耳の延長

リンリンと、ひっきりなしに、電話のベルが、なっています。

「ニューヨークを、さっきからよび出しているのだが、まだか。」  
と、聞いている人があります。

ここは、東京の、ある新聞社の編集室です。今、スウェーデンのストックホルムから、重大なニュースが、はいつたのです。



新聞社の編集室

「ストックホルム特電」A P 特約」スウェーデン科学学士院は三日、一九四九年度のノーベル物理学賞を日本人としてはじめて湯川秀樹教授に授与した、賞金は十五万六千二百八十九クローネ（約三万ドル）である、湯川氏は四十三才、九月以来コロンビア大学の理論物理学教授としてニューヨークにある。

この記事は、昭和二十四年十一月五日、新聞の第一面に大きくのりました。これを読むと、なぜ編集室の人たちが、いそがしそうに電話をかけていたかがわかります。ニューヨーク市にあるコロンビア大学の物理学部で、東京からの電話に、湯川博士は、こう答えました。

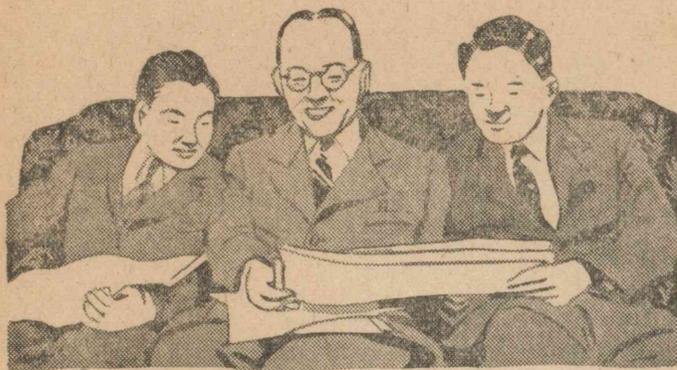
「ノーベル賞は、まったく思いもよらなかった。これで日本の科学者、いっばんの人たちも元気づいて、日本の再建に努力されるといふ結果になれば、これほど喜ばしいことはない。」

博士の養母みちさんは、尼崎市に住んでいます。大阪からの電話に、こ  
ういいました。

「あの子は、ひじょうに用心深く、自分のやりたいことがあれば、ほかのことなど目もくれず、いつしようにけんめいでした。昭和十年、はじめて原子の理論を考え、こんな研究が出来ましたと、いちいち知らせてくれました。」

京都には、湯川博士の同級生がたくさんいます。小学校の一友人は、「成績はよく、ずっと級長で、こんがすりの着物のむねに、赤いふさの級長章をさげていた。」といいました。大阪からは、博士の第三高等学校時代の写真を電送してきました。東京に住んでいる博士のにいは、たずねてきた新聞記者に、「日本人としても、兄としても、まったく喜ばしいことだ。なくなった父に知らせたかった。」といいました。

全国の新聞は、いつせいに、湯川博士の記事でうずまり、ラジオも放送をしました。



湯川博士とその家族 喜びの日

十一月三日、夕食後、湯川博士は、夫人といっしょに、NBCの、ベン・グラワーさんに案内されて、ラジオシティに行き、テレビジョンの前に立ちました。グラワーさんの質問に答えて、博士は、かたんに中間子の話をしました。最後に、

「湯川博士、あなたは、三万百七十一ドル七十四セントの賞金をもらえるのですが、それで何を買うおつもりですか。」

「私は、一ドル七十四セントで、むすこに野球のグローブを買ってやります。あとは、まだきめていません。」

と答えました。テレビジョンのスタジオに集まった人たちは、みんなわらいました。日本には、まだテレビジョンの機械がありません。しかし、新聞の記事を読んで、私たちもわらいました。そして、湯川博士と夫人、長男の春洋君と、次男の高秋君たちと会って、話をしたような気持ちになりました。博士たちは、今、太平洋をこえたアメリカにいるのですから、そんなことができるはずがありません。私たちは、新聞やラジオで知ったただけです。

朝起きると、すぐラジオをかけます。ビルマから、米七千トンを積んだジャカルタ号が、大阪に入港しました。おかあさんは安心したような顔をしています。天気予報は、雨です。太郎は、レインコートを持っていかなければと考えています。おとうさんは、朝刊を読んでいます。北九州にほ

う風雨があつて、被害を報じています。福岡のしんせきに、みまいを出さなければと考えています。

おかあさんが外米の配給があると知り、太郎が雨具を用意し、おとうさんが遠いしんせきのことを心配するのも、新聞やラジオによつてです。私たちは、よく目で見、耳で聞くといいますが、毎日の生活で直接見たり聞いたりすることは、限られています。私たちの日常生活に関する知識の大部分は、報道によるもので、報道がなかったら、いくらせのびしても、耳をそばだてても、遠くのことにはわかりません。わからなければ、考えることもできません。



ラジオを聞く家族

ですから、新聞やラジオは、私たちの目や耳の延長で、また知識の延長だ  
ということができます。

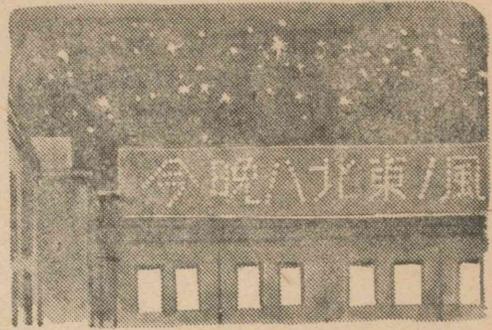
## 二 ニュースとは何か

人間が集まって共同生活をしているところを、社会といいます。社会に  
住んでいる私たちは、毎日起こること、めずらしいことを知りたいと思ひ  
ます。また、それを知っている人は、一時も早く知らせたいと思ひます。  
この知りたい、知らせたいという、二つの欲望がいつしよになつて、新聞  
が生まれるのです。

今、一まいの日刊新聞を手にとつて、どんな記事が出ているか見てくだ  
さい。小説とまん画と広告をのぞいたほかは、みな社会の出来事を報じて  
いるといつても、いいでしょう。——外国の一高官が日本をほう問して、

新聞記者と会見しました。国会では、財政について質問がありました。東  
北にはあらしがあつて、通信線が一部不通になりました。火事、追ひはぎ、  
交通事故など、いろいろの出来事が出ています。これはみなニュースなの  
で、新聞の生命は、このニュースの報道にあるのです。

では、いつたい、ニュースとは何なのでしょうか。いつぱんの人たちが  
知りたいと思つていること、興味を持つていることなら、なんでもニュー  
スとなるといつていいでしょう。私たちは、広い社会に起こるいろいろの  
出来事を見たり、聞いたり、ふれたりしたいのです。しかし、そうする時  
間も、費用もありません。新聞がその役わりを果してくれ、活字によつて、  
私たちはほんとうに見たり、聞いたりしたような気持になります。一つの  
出来事は、読者の興味と結びついたときニュースとなるので、読者が興味  
を持たなければ、ニュースとしての価値は少くなります。



電光ニユース

しかし、文字もなく、印刷術も発達していなかった原始社会では、どんな方法でニュースを知らせたでしょうか。川にたくさん魚がのぼってきた。それを見つけた人が、大きな声でさけんで、報道は次から次へと伝わり、部落の人たちは、つり道具を持って川へ走ってきます。遠くのなかまに知らせるためには、信号を使います。アメリカのインデヤンは、おかの上でたき火をし、

水牛の皮でけむりをパツパツとあおいで、「敵がせめてくる。」「相談があるから集まってこい。」「しゅう長が病気だ。」などと伝えます。手旗信号も用います。

しかし、長い間、天災や火事、世間のうわさ話、政府が国民に知らせた

いと思う法律や新しい規則など、人の口から口へと伝わってきたのです。つまり、人間の口が、通信や報道の重大な役目を果してきました。遠くから来た人があると、村や町の人たちが集まって、いろいろのニュースを聞きました。このような話は、みんなほんとうだとは限りません。話をおもしろくするために、大げさにいわれているかも知れません。うそが、まことしやかに伝えられるときもあります。こうした時代には、まだ信用できる正しい報道はなかったのです。



たてふだ

文字がゆきわたるようになってからは、政府は、国民に知らせたい規則を、たてふだや紙に書いて、つじつじに出しました。外国には、かねをならして、ふれて歩く役人がいました。 「町会が開かれる。」 「税金を納める日だ。」 「伝せん病が起きた。」 などと、ガランガランとかねがな

るたびに、町の人たちは四つつじに集まって、ふれを聞きました。イギリスでは、一六〇〇年ごろから、「ニュース通信社」という新しい報道が開始されました。首都の出来事を知りたい地方の人たちが、ロンドンに住んでいる知人にたのんで、時々手紙の形で報告してもらうのです。手紙は駅伝といって、さいしょは足の速い人が、次には馬で、駅から駅へと次々に運んでいきます。そのうちに、通信をほしがる人がたくさんになったので、この仕事を専門に職業とする人が出来ました。

日本でも江戸時代に、このようなニュース通信がありました。大名たちは参勤交代まんとくこうたいという制度によつて、家族を江戸に住まわせ、自分は一年おきに領地から江戸へ出てくるのです。領地にいる間も、江戸の事情を知らなければなりません。それで、留守をしている人が、江戸の出来事を報告するのです。

このようにして、人間の知りたいという欲望は、いくぶん満たされましたが、しかし、それは一部分の限られた人たちの間だけで、たくさんの人たちは、社会の動きについて、何も知りませんでした。

しかし、今日、私たちは、新聞やラジオを通じて、早く、正確な報道を聞くことができます。新聞は目で読み、ラジオは耳で聞くので、人間の二つのちがった器官を通じて、はいつてきます。しかし、早いという点で、新聞はラジオにかないません。新聞は、だいたいい日に一回、多くて二回しか印刷されません。活字に組んで市内に売り出すまでには、数えきれないほどの人手と努力がいります。しかし、ラジオは、日に数回放送できます。日本放送協会のプログラムによると、現在一日九回ニュースの放送があります。時間にすると二時間余になります。重大なニュースがはいれば、他のプログラムを中止して、臨時放送することができます。最近しつぎょうは「実況放

送」といって、その場に機械を持っていき、こくこくにニュースを放送しています。

毎日数回のラジオニュースを聞き、もつとも新しい報道を耳にしているから、新聞を読まなくてもいいようなものですけれども、私たちは新聞をとって、同じことをもう一度読まなければ満足できません。聞いたことをもう一度、目を通じて頭の中に深くしみこませるのです。もちろん、ラジオと新聞と、記事のあつかい方がちがっているときも多く、ラジオではこういったが、新聞にはどう書いてあるかと注意するときもあります。両方とも特長があり、現在の私たちにとって、ラジオも新聞も、毎日の生活になくてはならぬものです。

日本ではまだ見られません、アメリカなどではテレビジョンが大流行で、耳で聞くと同時に、目で見ることもできるようになりました。ラジオと、えい画と、新聞とを合わせたようなもので、世界の通信網は、新しい時代にはいろいろとされています。

### 三 新聞の発達

新聞の発達と、印刷の技術とは、深い関係があります。印刷はさいしよ木版でしたが、版木がへって、たくさん部数を刷ることができなくなって



グーデンベルクと  
その印刷機

た。一四二八年に、ドイツのグーテンベルクが、金属製の活字を発明しました。一六一五年、ドイツにさいしよの新聞が生まれ、それから十六年後に、フランスにも発行されたと伝えられて

います。しかし、今日私たちに親しまれている新聞のかたは、イギリスに

発達したもので、イギリスは現在でも、新聞王国として知られています。

アメリカ新大陸では、一六八八年、ボストン市に小さな新聞が発行されました。一七二九年には、有名なベンジャミン・フランクリンが、「フィラデルフィヤ・ガゼット」という週刊新聞をはじめ、それが一七六五年まで続きました。今日、アメリカには、朝刊紙が約



三百種、夕刊紙が約千四百種あります。広い国で版すから、各地の都会に、大新聞が発達しているのです。

日本では、一七〇〇年ごろから、「読売かわら版」



はじめのころの新聞

とって、ねん土に絵や字をきざみ、それを焼いて紙に印刷し、読みながら市中を売り歩いたものです。地震、大火事、その他事件があると印刷されましたが、まだ、ほんとうの新聞といふことはできません。

一八五三年、アメリカのペリー提督が浦賀へ来て、幕府は、外国と通商することに決めました。国民に海外の事情を知らせるため、幕府は、オランダ語を訳して、「バタビヤ新聞」を出しました。明治三年（一八七〇年）には、「横浜毎日新聞」が発行されました。これまでの新聞は、半紙をつづり合わせた雑誌のようなものでしたが、この新聞はなまりの活字を使い、洋紙一まい刷りて、毎日一回発行しました。

このころから、日刊新聞がたくさん出て、読者も多くなりました。しかし、新聞は、ニュースの報道よりも社説に重きをおいて、進歩的な人たちの意見がおもな記事となっていました。明治の初めごろから、「東京日日新

聞「読売新聞」「朝日新聞」などが創刊され、新しく出来た電報を利用して、重要なニュースを早く手に入れて報道するようになりました。

このころの新聞は、どのくらいの発行部数だったのでしょうか。明治二十年（一八八七年）ごろ、いちばん部数の多いのが一万三千で、あとは五千、三千、少いのは七、八百だったのですが、明治三十七年（一九〇四年）には、「万朝報」が十六万部、「報知新聞」が十四万部、「東京日日新聞」が九万部という、すばらしいふえかたでした。

印刷の技術も、進歩していきました。さいしよは、外国から輸入した輪転機を使っていました。明治三十七年には、津田寅次郎つだ たけじろうという人が、日本文字に適した新しい輪転機を製作して、能率的に印刷できるようになりました。

#### 四 新聞の種類



私たちの新聞を作ろう

新聞にはいろいろ種類がありますが、その前に私たちは、新聞とはなんであるかを知らなければなりません。さきに新聞やラジオは、私たちの目や耳の延長で、また知識の延長でもあるといいました。知りたい、知らせたいという、二つの欲望がいつしよになるときに、新聞が生まれるともいいました。新聞の歴史では、さいしよの新聞は社説に力を入れ、政治家や、新しい考えをもった人たちの意見を多くのせていました。だんだんニュースに重点をおくようになったとも書きました。これで、だいたいの新聞の性格がわかり、新聞を読む人たちが、何を求めて

いるか、はつきりすると思います。

新聞には、三つの特質があります。第一は、新聞がみんなのもので、三度の食事のように、毎日の私たちの生活になくはならぬことです。やさしくて、だれにもわかるように、また安くて、だれでも買うことができることがたいせつです。

第二は、新聞は、いつでも新しい問題をとりあつかっていることです。ニュースというのは、新しい出来事という意味です。古くなつたらもうニュースではありません。役に立たないものを、よく古新聞のようだといいますが、報道は、じつさいにあつたことを、できるだけ早く大衆に知らせることです。

第三に、新聞は、一定のきまつた時に発行されるということがたいせつです。朝起きて、門のゆうびんばこをあけると、新聞がはいつています。

おとうさんが、仕事の帰りに、駅の売店で夕刊を買います。きょうは新聞が来るのか来ないのかわからないというのでは、こまります。

ところで、一定のきまつた時といつても、いろいろ種類があります。私たちにいちばん親しまれているのは日刊で、これには、朝刊と夕刊とがあります。そのほか一日おき、週二回、または三回などあります。週刊は週一回、旬刊は十日に一回、月刊は月一回、季刊は年四回、そのほか年二回、年一回などあります。しかし、私たちがふつう考える新聞は、日刊です。特殊の組合とか、産業の機関紙には、週刊、旬刊、月刊新聞があります。月刊ですと雑誌に近くなり、年刊ですと年鑑や年報と同じくなくて、新聞というやくそくから、少しはなれることになります。

**日刊新聞** さきにあげた新聞の三大特質からみて、日刊がいちばん理想的です。一日一回、私たちが知りたいと思うことをとりあげ、正しく報道

します。新聞の記事はやさしく、だれにもわかるように書いてあります。かんたんに、たいせつなところだけあげてあるので、読むのに時間がかかりません。日刊新聞は、国内と海外のニュース、政治、外交、経済、社会、スポーツ、食料の配給、天気予報、そのほかあらゆる問題をとりあげています。みんな一通り目を通しますが、また、めいめい、自分の専門や興味をもっている記事に注意して読みます。国会の議員は政治や外交を、家庭の主婦は配給らんを、運動のすきな学生はスポーツを、えい画を見に行きたい人は、えい画評に注意します。

日本の大新聞は、公平な立場に立って、ニュースを提供しています。しかし、社説や、特別らんで、その新聞がどんな主義をもっているか、進歩的か保守的か、はっきりわかるときがあります。政党が出している新聞もありますが、ふつうの新聞は、独立して、自由な意見をもっていることがのぞましいのです。

日刊新聞の中にも、専門のものがたくさんあります。経済の問題を中心に編集している新聞、スポーツ、ごらく、宗教、婦人新聞などから、組合、農業そのほかの団体の機関紙など、たくさんあります。このようなのは特殊新聞といえます。

全国紙と地方紙 国土のせまい日本では、都会の大新聞が、全国に配布されています。このような新聞は、全国の人たちに興味のある記事をたくさんおさめます。ただ、いくら紙面をさいて、その地方のニュースをのせます。ですから、大新聞には、都会版と地方版とがあります。たとえば、神奈川県は東京都となりありますが、台風の時など、くわしい神奈川県は、東京の人たちにはあまり重大ではありませんから、神奈川県にだけおさめます。地方紙はその名の通り、地方の記事を中心としています。

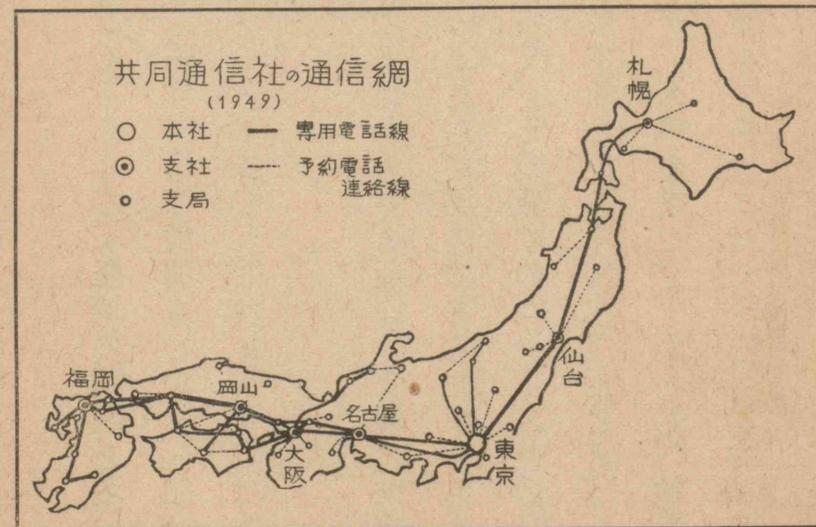
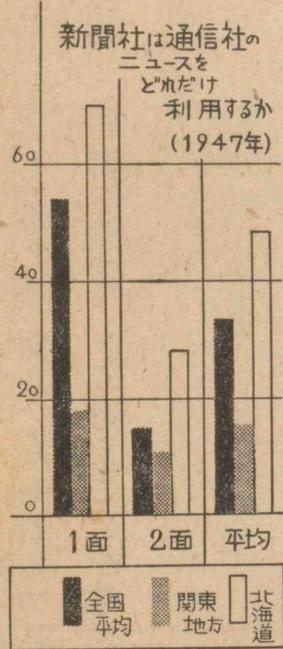
が、同時に重大な全国的のニュースも  
のせています。

**通信社** この本のさいしよに、湯川  
博士がノーベル賞をもらったニュース  
について書きましたが、これはスウェ  
ーデンのストックホルムからの特別電  
報通信で、「AP 特約」としてあります。  
AP は通信社の名です。通信社は、自  
分で新聞を発行するのではなく、各地の  
通信を集めて、それを各新聞社に売る  
組織になっています。いかえれば、  
今日では、ニュースも一つの商品なの  
です。

新聞は社会の目といわれていますが、できれば各新聞社が、有能な記者  
や特派員を、世界のあらゆるところに送ってニュースを集め、それを本社  
に送るようにしたいのです。しかし、いろいろの事情で、それができませ  
ん。ことに地方の小さな新聞社は、通信網をもっていないので、通信社の  
送ってくるニュースをのせます。

通信社のおもなものは、イギリスのロイター、アメリカのAPとUP、  
ソビエトのタス、中国の中央、日本の共同などです。

では、新聞社は、通信社か  
らのニュースを、どれだけ利  
用しているでしょうか。昭和  
二十二年（一九四七年）八月



のしらべによつて、一年間の平均を、全国、および、関東と北海道についてみると、前の表のようになります。この表を見て、どういふことが考えられますか。

## 五 新聞社の組織

役所や会社とちがつて、新聞社の仕事は、朝おそくはじまります。しかし、夜には、他の人たちが家に帰つて町がしずかになつても、新聞社の建物は、明かるく電燈がついています。大きな事件でもあつると、ひとばんちゆう明かりが消えません。選挙、大水害、内閣（内閣）が変わるときなど、記者や、地方の通信員は、いく日も夜とおしてやることがあります。地方のニュースは本社に電話で送るのですが、写真はトラックか汽車か、電送という方法をとります。風水害で汽車が不通になつたときなど、通信員は川を泳い

だり、自分でいかだを作つてわたつたりして、汽車の通じている駅に行くか、大きな都会に着いて、そこから本社に電送するのです。

ものすごい地震のあとや、大水の写真を見るときに、私たちは、たおれた家をふみこえ、もう火の下をくぐり、だく流にまきこまれるきけんをおかしながら、命がけて記事や写真をとつた記者の苦勞を、わすれることはできません。

新聞社は、たいてい四つの部門に分かれています。——編集局、論説委員室、印刷局、業務局がそれです。

この四つのうち、新聞社としていちばん重大な仕事をしているのは編集局で、これが新聞社の頭脳（頭脳）であり、心臓（心臓）であります。広い室には、つくえがぎつしりならんでいます。つくえの上には、電話がとりつけてあります。外国通信社から来る電報が、欧米部（欧米部）の記者たちのつくえの上に、つまかさ

ねられます。ヨーロッパ、南北アメリカ大陸からのニュースで、部員はこれに目を通し、重要なものはほん訳部へまわします。アジアの各地からはいるニュースは、東亞部へ行きます。政経部では、政治経済の問題をとりあつかうので、記事の材料は、政府の各省、内閣、国会、経済安定本部、日本銀行、そのほかたくさんの方に記者を送り、それらがさかんに活動して集めるのです。

新聞の第一面にのる記事の大部分は、これらの部員が資料を集めます。社会部というのは、私たちの生活に近い、いろいろの事件をとりあつかいます。犯罪、事故、天災、ストライキなど労働に関する問題、食料衣料の配給、教育、発明、そのほか社会問題はみなこの部の仕事です。記者たちは、このようなニュースの集まるどころへ行っています。警視庁、検察庁、市の警察署、政党の本部、労働組合、市役所などで、たえず本社とれ

んらくして仕事をしています。消防署につめてある記者から、「何町何丁目に火事がある。今すぐ行く。」と、本社に電話して、出かけます。現場に着いて、大きな火事ですと、また電話して記者を数名送ってもらいます。号外を出さなければならぬかも知れないのです。

大きな新聞社は、地方に支局をもっています。支局のない市や町には、通信員がいて、電話で本社とれんらくをとり、ニュースを送ります。通信部は、送られた材料を整理して、各地に送る地方版にのせます。

社会部と通信部で集めた記事は、新聞の第二面にのります。編集局には運動部があります。野球、水泳、すもう、そのほかあらゆるスポーツの記事をとりあつかうのですが、これから国際的なスポーツがさかんになるので、部員はいそがしいのです。たんに記事だけでなく、国民の間に健全なスポーツの精神を養うよう、部員はつとめています。

重いカメラをかたに、雨の日も風の日も、夜はフラッシュをたいて活動しているカメラマンは、写真部員です。

夕方になると、原稿のしめきり時間が近づいてきます。編集局で重要な役わりをしている整理部員の仕事は、これからはじまります。集まった原稿はみなニュースなのですが、紙面が限られているので、全部のせるわけにはいきません。けずったり書きなおしたり、また、あるものはすててしまわなければなりません。のせるにしても、どこにおいたらいいでしょうか。ニュースの価値を考えて判断するのですから、これはむずかしい仕事です。もう一つむずかしい仕事に、「見出し」をつけることです。重要な記事も、見出しがわるいと見のがされてしまうか、たいしたニュースではないと思つて、いそがしい人は読まないかも知れません。題を見ただけで内容がわかるように、読みたくないように、工夫しなければなりません。新聞を読みやすく、人をひきつけるものにするのも、つまらないものにしてしまうのも、整理部員の技術と判断によるのですから、ほんとうに大きな責任です。



新聞の見出し

印刷局は、大きな工場です。毎日使う活字は、一度ですりへつてしまうので、古いのをとがし、新しい活字を作ります。新聞社では、毎日五万の活字が入用なのです。印刷は高速度輪転機で、一時間に十五万まいという早さで、りっぱな新聞紙が出来あがります。出来あがった新聞は、発送部からトラックで運び出されます。

六 ラジオと私たち



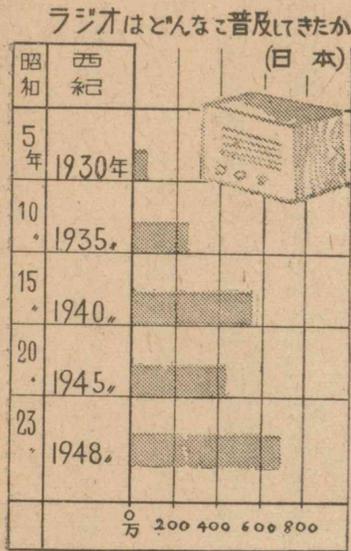
あらしの夜 トーマスと運転手

まっ暗なあらしの夜です。せいの高い人が、町角で、タクシーをよびとめ、「中央停車場まで行ってくれ。」といいました。運転手は、後をふりむきもせず、「私は、その声をよく知っていますよ。ローウエル・トーマスさんでしょう。」といいました。

二十年の間、週五回、同じ時間にニュースの放送を続けているトーマスは、何百万の友だちをもっています。会ったことも、写真を見たこともない人たちでも、トーマスの声を知って、古い友

だちのように思っているのです。

私たちも、声の友だちをたくさんもっています。昭和二十三年夏の調べによると、家庭にあるラジオ受信器は七百万台を、とっばしました。人口を八千万とすれば、十一人に一台のわりになります。東京の放送局から、一人のアナウンサーがニュースを放送すれば、日本全国の人たちが、それを聞くことができます。電波は一秒間に地球を七回半まわるといわれていますから、この電波にのせられたニュースや音楽



は、ひじょうな速力で、聞いている人たちの耳に配達されるのです。

国名	受信器の数	何人に1台か
アメリカ	6600万	2.3人
ソ連	186万	3.5人
イギリス	1068万	4.6人
フランス	1210万	16.6人
日本	800万	10.0人

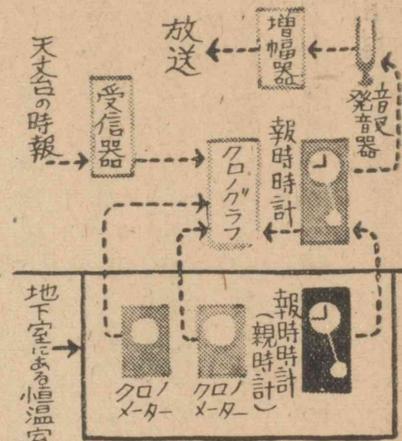
ラジオはどんなに普及しているか (世界)

新聞とちがつて、一度に何人でも聞くことができます。時間にもきよりも関係なく、字の読めない人、目の見えない人、おとなも子どもも、仕事をしながらでも聞けます。

朝五時半から夜十一時まで、受信機のダイヤルをまわしさえすれば、何かが聞えてくるのです。ニュース、天気予報、配給日より、街頭録音などは、新聞に似ています。「楽しい科学」「音楽こども部屋」「社会科」「私たちのラジオ新聞」などは、学校を思わせます。「二十のとびら」「かねのなる丘」「日曜ごらく版」などは、えい画、おしばいの役目を果しています。スポーツ放送の時は、何百万の人たちが、まるで本物を見ているように、息をはずませて聞いています。

一日は二十四時間ですが、第二放送を入れると、ラジオは、毎日平均三十五時間、かっぱつに働いているのです。

ダイヤルをまわして、朝いちばんさきに、私たちは天気予報を聞いて、一日の計画を立てます。にさんは英語に熱心で、一日も休まず、ラジオで勉強しています。七時のニュースを聞いてから、おとうさんは仕事に出かけます。学校では、各教室に高声器がそなえてあつて、学校放送を聞くことができます。おかあさんは、小さい弟や妹と、おひるをたべながら、「婦人の時間」を聞いています。ラジオの健康相談は、ぜひ聞かなくてはと、おかあさんは、よくそいいいます。夕食がすんでから、家族がみんな茶の間に集まって、「話のいずみ」「二十のとびら」、ラジオ劇を聞きます。にさんはアメリカ進駐軍の放送を聞いて、新しい発明や、めずらしいニュースを知らせてくれます。となりの次郎さんは、擬音を研究しています。ラジオドラマの時など、あの雨の音は何を使ったか、馬の足音はどうして出すかを説明し、実演して見せます。汽車の走る音を出すときには、いろ



時報装置の図

いろいろの道具を集めて、それをみんなに手伝つてもらつて、音を出すのです。

花子の家では、時々、時計が進んだりおくれたりするので、ラジオで合わせます。

ブツブツ、カーンとかねがなつて、時報を知らせます。ラジオは、どうして正確な時間を知るのでしょうか。花子は、放送局へ行つてしらべてきました。そしてそれを前のような図で現わしました。

このように、朝起きてから夜ねるまで、ラジオは、私たちの生活になくしてはならないものの一つになっています。時計のかわりに、ラジオで時間を知ることがあります。新聞を読むかわりに、放送を聞くときがあります。えい画や野球を見に行くかわりに、放送を聞きます。日本では聞くことの

できない音楽を、ラジオの中継放送や、レコードで聞きます。議会でした首相の演説を、録音放送で聞きます。台風のと きなど、数分おきに情報を伝えてくれます。もっとたいせつなことは、さきに新聞のところて述べたように、報道が速いことです。福井の大震災は、地震があつてから一時間後に、放送されました。新聞社の号外よりは八時間、夕刊よりは十四時間、朝刊よりは二十四時間速かつたのです。

このように、私たちの生活に重大な役目を果しているラジオには、どんな番組があるか、何を聞いたらいいか、考えてみたことがありますか。電気之父といわれるトーマス・エジソンは、十二才の時に汽車の売子になりました。デトロイト市に着くと、汽車は、いつも数十分停車するのです。エジソンは、この間に大急ぎで市の図書館に走つて行き、本を借りてきました。たなにならんでいる本を、かたはしから一さつずつ読みました。数

週間のうちに、一つのたなの本はみんな読みました。しかし、図書館には、本がたくさんあります。——これをみんな読むなんてことはできない。よく選んで、いちばんよい本だけ読むのが、かしこいのではないかしらと、エジソンは考えました。

新聞を手にとつて、一日の放送番組を見ましよう。今までどんな放送を聞いていたでしようか。ニュース、社会の動き、ごらくなど、よく調和がとれていたでしようか。今まで気がつかなかつたが、ぜひ聞きたいという番組はありませんか。エジソンのように、よく選んでよい番組を聞いていたでしようか。

今日、日本では、ひとつの協会だけがラジオの放送をしています。近くアメリカのように、いくつかの放送会社ができて、たくさん番組があるようになりましよう。アメリカでは、商業広告放送をするので、広告放送をする会社が費用をはらい、ラジオを聞く人たちは料金をはらいません。毎日たくさんの会社が放送するようになると、いよいよ番組を選んで聞くことが、たいせつになってきます。

## 七 新聞の責任

新聞の使命はニュースの報道で、事実を早く、正しく民衆に伝えることです。私たちは、事実を知り、その意味を理解し、どう行動したらいいかを判断します。ほんとうのことを知らなければ、正しい判断は生まれてきません。しかし、今日の社会は複雑で、事実を知っていても、それにどんな意味があるのか、私たちの生活にどうえいきようしてくるのか、よくわからない場合があります。それで新聞は、ニュースの報道だけでなく、それを説明し、みんなの意見を正しい方向へ指導していく、重大な役わりを

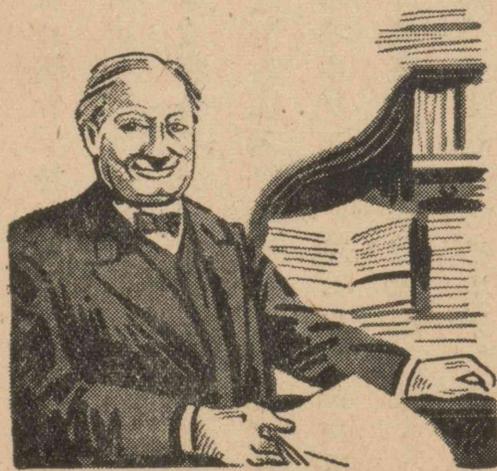
もっています。そして、これを担当するのが、論説委員です。

新聞を手にとってみて下さい。第一面の左の上の方に、「社説」という特別らんがあります。社説は、政治、経済、社会、文化など、あらゆる出来事に対し、その新聞の意見をのせます。問題は大きなものとはかりは限りません。小さな事件でも社会的に大きな意味があれば、それを批判して、人々に、それが生活とどのような関係にあるかを明らかにし、考える材料を与えてくれるのです。たとえば、重要な地位にある人が暴力行為をしたとすれば、これは小さな事件で、ニュースにもならないかも知れません。しかし、その暴力行為は、大きな社会問題です。弱いものが、強いものや、権力をもったものになぐられても、なきねいりをしなければならぬ。いような社会があつてはなりません。このような、やばんな行為をなくすために、世論を起さなければなりません。新聞の社説は、これをとりあ

げ、私たちに反省をうながすのです。新聞の社会的責任について、新聞のために一生をささげたアメリカのウイリヤム・アレン・ホワイトの例をとつて、考えてみましょう。

ホワイトは、一八六八年二月十日、中部平原のカンサス州、エムボリヤの町に生まれました。父は医者で、治療には熱心で、しかもしんせつだったので、かん者がたくさん来ました。しかし、診察料も、薬代も、こまつた人からは一銭もとろうとしないので、いつもびんぼうなくらしをしていました。

ひとりむすこのウイリヤムは、十七才の時、エムボリヤ大学にはいりました。大学といつても実験室も図書室もなく、学生はたった七十五人でした。



ホワイト氏

た。十四才の時に父に死なれたので、健康なわかいものが、母に働かせて学校にかよっているのは、申しわけがないと思つて、町の新聞社の小使になつて、学校がすむと働き、活字ひろいや、印刷の手伝いもしました。次の三年間は、大学で勉強を続けながら新聞社に働き、社会面の記事を書いたり、広告をとつて歩いたりしました

二十三才の時、ホワイツトは、中部の大きな都会の一つであるカンザスシティーの「スター」新聞社の記者になりました。「スター」紙は、アメリカでもすぐれた新聞の一つに数えられ、主筆ネルソンは、熱心な社会改革者でした。当時、水道、電気、ガスなどの公共事業も、経営者たちはもうけることばかり考へて、公衆の利益をわすれていました。ネルソンはホワイツトをよんで、ガスの料金値上げ運動を開始するよう命じました。ホワイツトは、町の人たちの意見を聞き、資料を集め、他の都会と比べてこの

町は、なぜガスの料金が高く、みんなが使用できないか、だれが不当の利益をむさぼっているかなどしらべて、新聞に書きました。今までは、どうにもならないとあきらめていたカンザスシティーの人たちも、この問題をとりあげ、ホワイツトに協力したので、料金は値下げになりました。



ストーン氏とボス

「スター」の編集長トーマス・ストーンは、何物にもおそれない、正義感の強い人でした。ホワイツトが「スター」社にはいつて間もなく、ある朝、州の政界のボスが編集長をたずねてきました。かばんから大きなさつたばを出して、つくえの上におき、編集長を説きふせにかかりました。ストーンはだまって相手の話を聞いていましたが、話が終ると、ストーンは後のまど

をあけました。そして、つくえの上のさつたばを手に取りあげると、あつという間もなく、後のまどから、通りにほうりなげてしまいました。それからゆつくりとまどをしめ、「お気のどくですが、おことわりします。」といいました。ボスは、あわてて階だんをころがるようにかけおりて、外へ出て行きました。

わかいホワイトは、父親の血をついでやはり開拓者かいたくでした。人に使われているのがきらいでした。何をおいてもひとりだちしたいと思つて、母親と妻のサーリーに相談しました。郷里きょうりのエムポリヤの町には、二つ新聞がありました。その一つの「ガゼット」紙は、金がなくつぶれかけていました。ホワイトは、借金してこの「ガゼット」紙を買いました。そして自分の貯金を全部引き出して引つこしの費用にあて、エムポリヤへ出発しましたが、汽車のきつぶを買つてしまうと、さいふには、一ドル二十五

セントしか残っていませんでした。これは一八九三年六月のことで、ホワイトは、その時二十五才でした。

ホワイトの「ガゼット」紙は、進歩的な新聞で、少数の人は喜びましたが、たぐさんの人たちは、ニュースのとおりあつかいや社説について、文句をいいました。何もそう正直に書く必要はない、そんなことをすると損をするといいました。おじいさんの時代も、おとうさんの時代も、そうやってきたのだから、今だつてそれでいいのだと、保守的な人がいいました。しかし、ネルソンやストーンの下できたえられたホワイトは、どこまでも正義のために戦う勇氣を持つており、自分の主義主張をまげませんでした。母親がタイプを組む手伝いをすれば、妻のサーリーが会計を受け持ち、ホワイトは記事や論説を書き、広告取りや、新聞の販売はんばいまで一手に引き受けて、朝七時から夜十時すぎまで、毎日働きました。「ガゼット」紙の発

行部数はたった五百で、経営はずいぶんこんなんでした。

そのころ、カンザス州の政治は、まったく腐敗くぱいしていました。中部平原のこえた土地で、農作物がたくさん出来るのに、州はびんぼうなのです。ホワイトのいい考えは、いつも強い反対に会って、たたきつぶされてしまいます。ある日、ゆう便局から、うていっばい手紙やゆう便物をかかえて、「ガゼット」の事務所に帰るとちゅう、ホワイトは、反対者たちにおそわれました。やっと切りぬけ、事務所に帰ってきたホワイトは、さつそくつくえに向かつて、次の日の社説を書き、「カンザスは、いったいどうしたことなのか。」と題しました。

ホワイトは、「カンザスは、いったいどうしたのか。」という言葉をくり返しながら、痛いところをついていきました。——いい人物を議会に送るかわりにつまらぬ人を選び出し、正しい政治を行うかわりに町のやくざ者

をもり立て、きげんのわるい馬のように、気に入らないものはなんでもけとばしてしまふ。知ったかぶりをして経済や貿易の問題を論じる人間はたくさんあつても、家庭ではあすの食料を買う金がなく、家族は青い顔をして苦労している。要するに、カンザスは腐敗して住みにくいところになつてしまつたのだ。

この社説が出たあくる日、ホワイトが事務所へ行くと、つくえの上は、電報や手紙でうずまっています。次の日もその次の日も、賞讃しょうさんや激励げきれいの手紙が続々来しました。首府ワシントンの下院議長リードからは、「私は、このようなすばらしい内容の論文を、過去十数年見たことがない。」とまでいつてきました。

毎日、たった五百部しか発行していなかつた「エムポリヤ・ガゼット」紙は、一夜のうちに、アメリカ全国に知られました。首府ワシントンにい

る進歩的な考えをもった人たちは、勇敢なホワイトトをほめて、ぜひ会いたいと言ってよこしました。

ホワイトト夫妻は、まだ一度も、カンザス州から外へ出たことがありません。ボール紙のはこに、ゆでたまごやサンドウィッチなど、二日分の弁当をつめて、汽車にのりました。ホワイトトは二十九才、妻のサーリーは二十六才でした。

ワシントンでは、下院議長リードに会いました。「海軍省の役人で、君に会いたいという人がいる。名はルーズベルトという人だが、君の書いたものは、みんな読んでいるよ。」と、リードがいました。

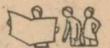
セオドル・ルーズベルトとの会見は、二時間余にわたりました。ルーズベルトは、新しい時代がはじまろうとしていること、アメリカの大きな責任などについて、わかり新聞記者のホワイトトに理想と使命を語り、ホワ

イトに大きなゆめを与えました。それから四年後に、ルーズベルトは大統領になりました。

東部への旅は、ホワイトトの見聞を広めただけでなく、かれをほんとうの愛国者にし、国のために生命をおしませ戦う勇士としました。けれども、どんなにすすめられても、ホワイトトはエムボリヤをはなれず、一九四五年になくなるまで、「ガゼット」の主筆として、一生を新聞のためにささげました。

## 八 新聞を私たち

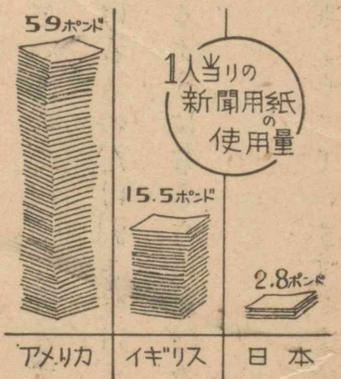
今日の日本では、一日に、千九百万部の新聞紙が発行されています。これを全国の人口にわり当ててみると、四人に一部となります。世界の大きな国々の新聞と人口のわりあいは、どうでしょう。次の表を見てください。

新聞と読者 *(1947)		 新聞発行部数	 人口に対する割合
国別	人口		
アメリカ	14400万人	5075万部	2.6人に1部
イギリス	4975 "	4947 "	1.0人に "
フランス	4100 "	1343 "	3.2人に "
ソ連	19350 <sup>(1940)</sup>	3300 <sup>(1942)</sup>	3.8人に "
日本	8022 <sup>(1948)</sup>	1931 <sup>(1948)</sup>	4.2人に "

一八九〇年ごろ、日本では、百人につき一部といわれていましたから、六十年の間に、新聞の読者がおどろくほどふえたことがわかります。今日では、どんな山おくへ行っても、新聞を読んでいる人はいないでしょう。

印刷物には、新聞のほか、雑誌、書物などいろいろあります。評判のよい雑誌は、毎月数万部発行され、書物も、二版三版と続けて刊行されるのがあります。しかし、それでも、一年のうちに数万部に限られていますから、紙の消費量からみて、新聞に比べたらわずかなものです。ひとり当たりの新聞使用量を、アメリカ、イギリス、日本と比べてみると、次の表のようになります。アメリカの新聞は、

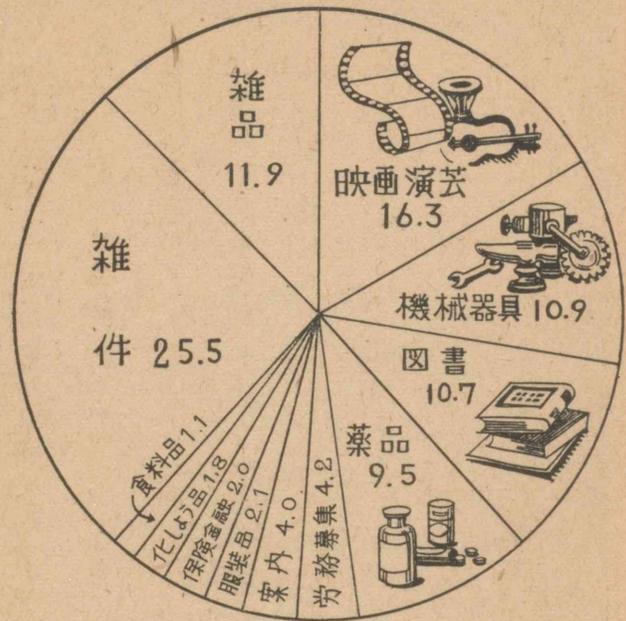
一部二十ページから三十ページで、「ニューヨークタイムス」紙の日曜版は、三百ページもあります。現在の日本では、ふつう二ページで、週一、二回四ページです。



新聞の役わりについて、もう一つ私たちがわすれてはならないことがあります。それは広告です。第一面の下と、第二面の三分の一は、全部広告がしめています。書物、雑誌、薬、食料、日用品など、あらゆる商品が広告してあります。しかし、もう少し気をつけて広告を見ましよう。家や土地を売りたい人と買いたい人、やとわれない人とやといたい人、デパートの売出し、銀行、会社、病院、えい画館など、あらゆるものがのっています。政府が、いっばんの人に知らせたい注意のつています。広告は、新聞記事と同様に、たいせつなものなのです。

むかし、新聞は、たった一銭でした。それから二銭、五銭、十銭になり、今ではその十数倍になりました。それでも、他の商品に比べると安いのです。新聞を印刷する費用もずいぶんかかりませんが、社員の俸給も大きな金額になります。私たちが新聞を安く買うことができるのは、広告を出す人たちが、高い広告料金をはらうからです。新聞の発行部数が多ければ多いほど、広告を読む人が多く、読む人が多ければ、広告はそれだけ効果があります。そして効果があるから、広告料金は高くなるのです。しかし、新聞は、高い料金さえはらったら、何でも広告するというのではこまります。記事と同じように、商品をよくしらべ、信用のおけるものだけ引き受け、あの新聞の広告だからだいたいじょうぶだと、いわれるようにならなければなりません。

新聞社は、私たちに関係の深い、いろいろの事業をやっています。文化



新聞の広告  
昭和22年7月電報通信社調査—(54新聞の平均)

や科学に貢献した人たちに賞を与えたり、研究費を出したり、健康児を表しうして国民が健康に注意するようになりします。講演会、学生討論会、美術展らん会、音楽会、スポーツ競技会など、新聞社が主催する行事がたくさんあります。

地震、風水害の時には、医者や、かん護婦を、災害地へ送ります。寄附金を集めて、気のどくな人たちを助けます。診療所を開きます。田植やとり入れて、農家のいそがしいときには、託児所を開いて子どものせわをしま

す。みなさんの地方では、新聞社がどんな仕事をしているか、注意してみ  
てくださいます。



外国の新聞

調査と研究

- (1) 自分たちのニュースを、学校や学級のみなさんに知らせるには、どうしたらいいでしょう。その工夫、計画をしてみよう。(目と耳の延長)
- (2) みなさんの学校で、新聞を取っている家の数と、どんな新聞を取っているかをしらべ、家庭数との比を作つて表にしましょう。(同じ)
- (3) 外国の出来事が、日本の新聞に出るまでの時間を、気をつけてしらべてみましょう。(同じ)
- (4) これまで学習してきた通信のことについて、その発達の歴史や、生活との関係について、絵、表などにまとめて、研究し合ひましょう。(ニュースとは何か)
- (5) グーテンベルク、本木昌造、津田寅次郎などが、どんなに印刷のことに功績をのこしたかを、手わけして、本を読んだり、しらべたりして、報告書にまとめましょう。(新聞の発達)
- (6) 家にむかしの新聞があったら持ちよつて、今の新聞と比べてみましょう。(同じ)
- (7) みなさんの地方の新聞社をたずねて、新聞についてお話を聞きましょう。じっさいに新聞が作られることについて、見学しましょう。そして、それらのことについて、グループ毎に発表し合ひましょう。(新聞の種類)
- (8) 新聞社を見学した結果、自分たちの学校新聞や、学級新聞の編集をどうしたらいいかを考えてみましょう。(同じ)
- (9) みなさんの学校新聞を、近くの学校のものとも比較して、もっといいものを作るように工夫しましょう。(同じ)

- (10) ラジオが、私たちの耳にはいるまでの経路を知るには、どうしたらいいでしょう。いろいろの方法のうちで実行のできるものをえらんでしらべましょう。(新聞社の組織)
- (11) みなさんの学校では、校内放送設備がしてありますか。もしあったら、いろいろな放送計画を立て、放送してみましよう。(同じ)
- (12) 今週のラジオのプログラムを取って、それがどんなふうに関係しているか、種類別にドラフを作ってみましよう。そして、私たちの生活のどの面と関係しているか、考えてみましよう。(ラジオと私たち)
- (13) みなさんの家の人たちは、ラジオのプログラムのどれに興味をもっているかを調査して、年令別、男女別にわけて、組で整理してみましよう。(同じ)
- (14) ホワイットの一生についての感想文を書きましよう。そして、新聞のもつ役わり、新聞記者のしごとなどについて、おたがいに話し合いましよう。(新聞の責任)
- (15) よい新聞とはどういう新聞かについて考えて、組で話し合ってみましよう。(同じ)
- (16) 新聞と雑誌について、その長所、短所をあけて、比べてみましよう。(同じ)
- (17) 新聞とラジオの長所、短所をしらべて、表に作りましよう。(同じ)

## 一七時のニュース

七時のニュースを聞いていた大村家の人たちは、「おや、三郎おじさんのことじゃないか。」というおとうさんの声に、みんな顔をあげました。

厚生省の小川博士は、スイスのベルンで開かれる保健衛生会議に出席するため、近日中に出発すると、ラジオが報じました。

「今ごろ、スイスへ行くなんて、うらやましいね。」と、おとうさんがいいました。

孝一は、自分のつくえの上から、小さな地球儀をもってきました。春子は、本ばかり地図を出しました。ふたりは電燈の下へ来て、スイスをさがしています。

「スイスって、小さな国なのね。」

と、春子が、びつくりしたようにいいました。

「ベルンは、スイスの首都ですね。」

と、孝一がいました。

「孝一は、地図の記号をよく知っているね。」

と、おとうさんがほめました。

おかあさんは、あみ物をしながら、

「この前の日曜に来たとき、三郎おじさんはなんともいっていませんでした。急にきまつたのでしょうか。」

と、いいました。三郎おじさんは、おかあさんの弟です。

ねどこにはいつてから、孝一は、三郎おじさんのことを考えながら、なかなかねむられませんでした。船かしら、それとも飛行機かな。ひとつお

願いがあつたのだが、あした友だちとよく相談してからにしよう——など思つて、いつかねむつてしまいました。

あくる日の朝、新聞を読んでいたおとうさんは、

「ここに、おじさんのことが出ていますよ。」

と、新聞を孝一にわたしました。

厚生次官小川三郎氏一行は、スイスのベルン市で開かれる保健衛生会議に出席するため、来月三日羽田発、アメリカ経由、約二か月の予定で、各地の厚生施設を視察見学する。

「まあ、急なんです。来月三日といえば、あと八日しかないんですもの。」と、おかあさんがいいました。

「きょう、事務所から、電話をかけてみよう。」



地球儀

と、おとうさんは出かけました。

孝一は、春子をつれて学校へ行きま  
す。出かける前に、おかあさんにこと  
わつて、朝刊新聞をかりました。学校  
の庭には、もう六年生がたくさん来て  
います。孝一は、B組の友だちに、

「ちよつと相談したいことがあるから、  
あつちへ行こう。」

と、校庭のやなぎの木のところ  
に集まりました。孝一は、新聞を出し  
ながら、いいました。



子どもたちの相談

「ぼくのおじさんが、今度スイスへ行くことになったので、ひとつみんな  
と相談して、おじさんにたのみたいことがあるのだが——」

六年生の社会科では、日本と関係の深い国々について勉強することにな  
っているが、資料は少いし、どう勉強したらいいのかはつきりしない。だ  
から、おじさんをお願いして、外国から資料を送ってもらい、できたら手  
紙やハガキで、見たり聞いたりしたことを、知らせてもらうことにしたら  
どうだろうというのが、大村孝一のもち出した相談でした。

「すばらしいね。」

と、武たけしがいました。一郎は、

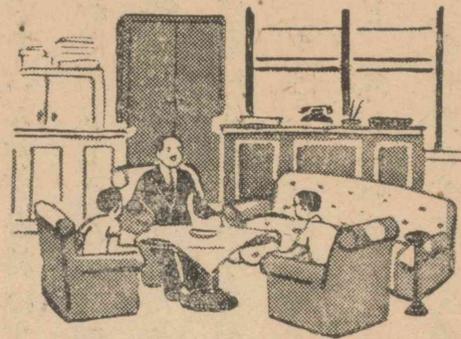
「大村君のおじさんを、六年B組の海外特派員とするわけだね。」  
と、少しもつたいらしくいったので、みんな手をたたいて、

「賛成、賛成。」

と、大きな声でさげびました。そして、大村孝一と、大内一郎を、B組の代表として、小川博士にお願いすることにきめました。

厚生次官室で、いそがしい小川博士は、孝一たちのお願いを、こころよく聞いて、

「今度の旅行はひじょうにいそがしいので、手紙など書いているひまも、あまりないと思う。しかし、君たちの問題は重大であるから、できるだけいい資料を送ってあげよう。それを役にたつように使うのは、君たちの責任だ。」



厚生次官と大村孝一、大内一郎

といわれました。

三郎おじさんがたつ前に、孝一と春子は、おかあさんにつれられて、ご

あいさつに行きました。

「むかしなら、水さかずきをして、大さわぎをするところだが、今では、ちよつと九州へ出張するくらいなものだからね。」

と、おじさんがいいました。パン・アメリカン航空会社のDC4で飛んで行くおじさんは、羽田を出発してから、二十四時間でハワイに着くのです。心配そうな顔をしているのはおばあさんですが、それでも、科学が進歩して、天気予報やラジオ信号などあつて、旅行にはちつともきけんがないと、おじさんがよくよく説明したので、おばあさんもやつと安心しました。

「おじさん、ぼくたちのお願いをわすれないでくださいね。」  
と、孝一がいました。

「よしよし、ちゃんとこのノートブックに書いてあるよ。ほら、外国の子どもの生活、衣食住のありさま、学校の様子、外国のいい習慣、科学

の進歩、そのほか君たちの将来の参考になることだね。おじさんの責任は、なかなか重大だよ。

ところでね、孝一君、向こうから送る資料には、英語で書いたものが多いだろうが、だれか読んでもらえる人があるかね。」

と、おじさんが聞きました。

「大内君のねえさんは、英語がうまいそうです。それに、ぼくたちの先生にも、英語のできる方があります。」

と、孝一はこたえました。

「それならいい。ひとつ、海外特派員に対して、ほん訳係をもうけるんだね。」

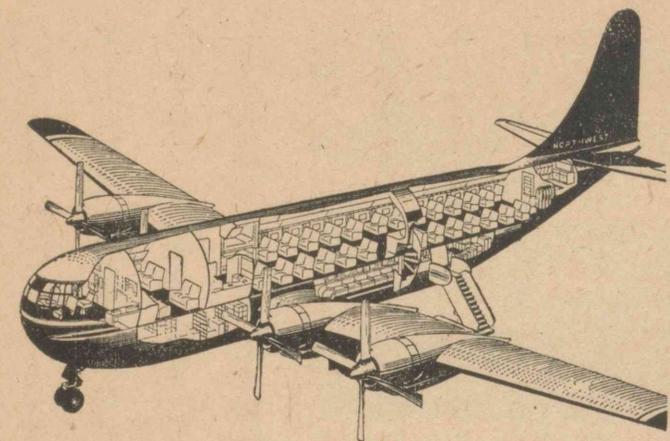
「そうします。では、おじさん、行っていらっしやい。」

「おじさん、ごきげんよう。」

と、孝一と春子は、おわかれして帰りました。

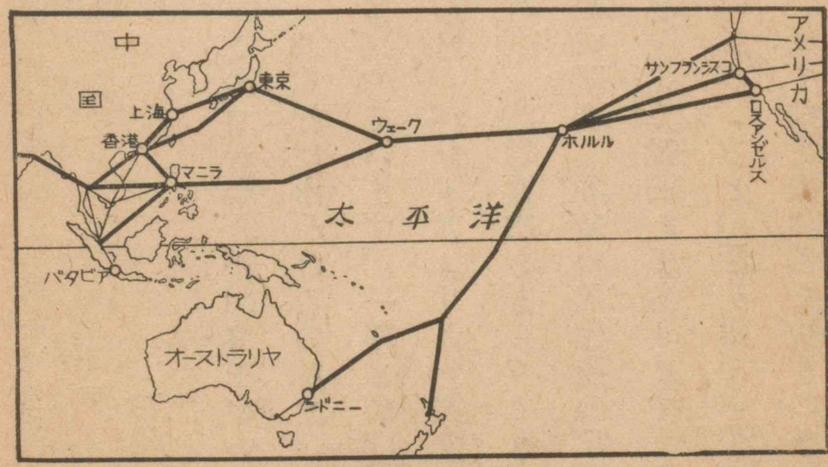
## 二 太平洋をこえて

六年B組は、この日から、小川博士といっしよに、世界一週旅行に出かけるのだといつて、みんなはりきっています。一郎と武は、一郎のねえさんと、パン・アメリカン航空会社の出張所へ行き、旅行案内をもらってきました。飛行機の時間表、各地の飛行場の設備、名所と産物など、よく説明してあります。旅客機の内部、エンジンなどの図が出ています。孝一たちは、紙で飛行機の形を切りぬきま

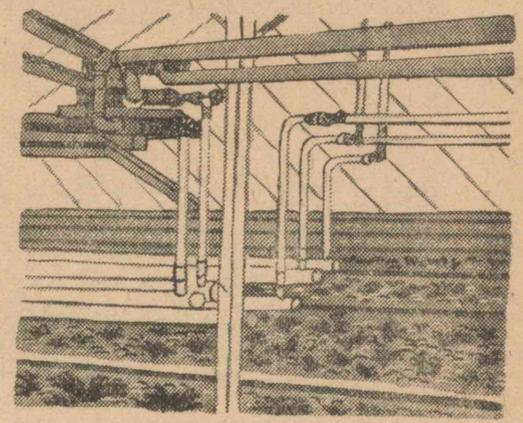


旅客機の内部

した。白い紙に、赤インキで、航空路をかきました。小川博士の飛行機はウエーク島に着き、ここでガソリンをたくさん積んで、ハワイ島のホノルル市に向かうのです。三日朝八時に羽田を出発した博士は、二十四時間後に、ホノルルに着きました。だから、着いた日は四日のはずなのに、やっぱり三日なのです。そのわけは、孝一たちも理科で勉強しているので、よくわかりました。航空便で、小川博士から、資料がとどきました。一郎のねえさんの玉子さんが、だいたいなところをほん訳してくれます。



太平洋の航空路

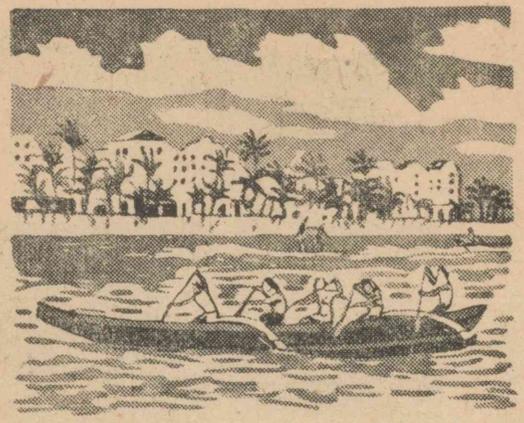


水耕栽培

ウエーク島の測候所と、水耕栽培の絵は、大きがあります。この島は三角形のさんご礁で、気候は一年中あたたかく、住みいいところですが、秋には、ひどい台風にみまわれるということを、みんな知りました。島には水がないので、雨水を飲み、ふるやせんたくは、機械で海水の塩分をとって使います。食料は、アメリカから、飛行機や船で運びますが、水耕栽培と違って、化学肥料と水とで、野菜を作っているのです。

孝一は、「地上の楽園——ハワイ」と、日本語で書いてあるパンフレットをみんなに見せました。どうして地上の楽園なのか——みんなで共同研究を始めました。

まず第一は、気候のいいことです。夏のいちばん暑い日でも、日かげにはいると、すずしい風がふいています。熱帯性の赤、黄、むらさきなど、美しい色の花が、一年中さいています。食料が豊富です。パイナップルや、



ハワイ(ワイキキの浜)

さとうきびの産地として有名なハワイ群島は、パイナップルのかんづめや、さとうを海外に送って、島になんかのものを輸入するのです。漁業もさ

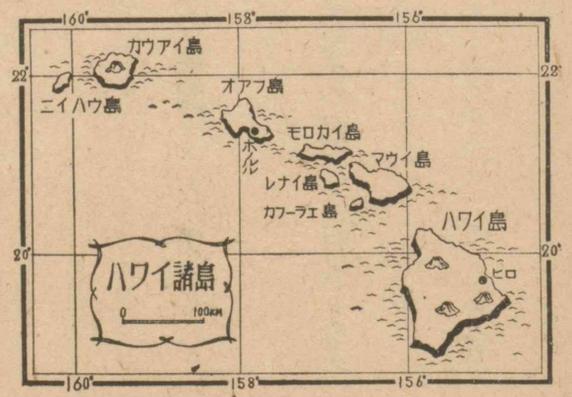


パイナップルの畑

かんで、漁夫は、ほとんどみな日本人系統の人たちです。

ハワイはアメリカの領土ですが、島には世界のあらゆる民族が住んでいます。むかしからハワイに住んでいたポリネシア民族のほかに、今日では、日本人、中国人、フィリピン人、アメリカ人、ポルトガル人など、みんななかよく生活しています。日本人が十五万人ぐらいいて、全人口の三分の一をしめています。

今から百年ばかり前に、ひょう流した日本の漁夫たちが助けられて、この島にきました。その後たくさんの移民が来て、農業、商業、漁業に従事するほか、医者、弁護士、先生、工場に働く人たちなど、みな成功しています。島の議会には、アメリカ人、日本人、中国人、その他あらゆる人たちが選ばれて、みんなが幸福に、豊かな生活がて



きるよう、正しい政治を行っています

ホノルル市には、大学、図書館、美術館、水族館など、世界で有名なものがたくさんあります。教育はよくいきわたっていて、読み書きのできな人はいないということです。仕事はたくさんあるし、働けばこまらないから、犯罪はひじょうに少ないのです。

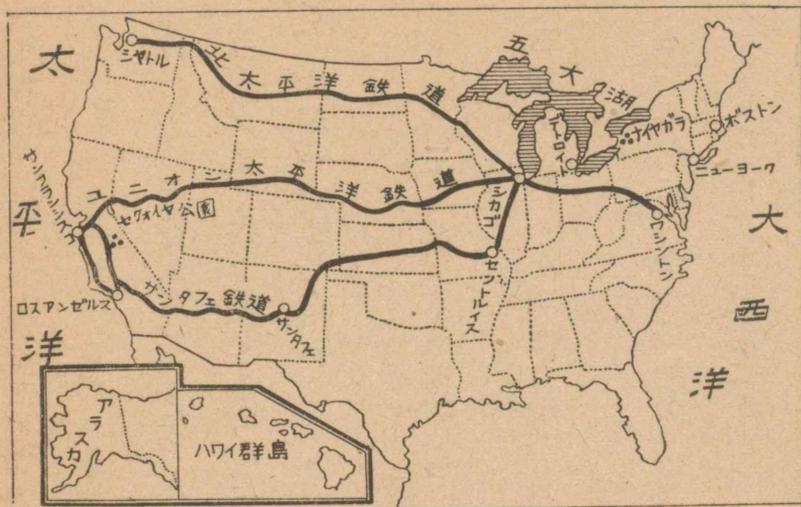
「すばらしいね。」

と、武がいました。B組の子どもたちは、「地上の楽園——ハワイ」という意味が、よくわかりました。

紙の飛行機は、紙の上の赤い航空路を、どんどん東へ飛んで行きます。

東京を出てから、六千七百十五マイル、旅しました。

もうそろそろ、小川博士から、第二の資料が来るころです。みんな首を長くして待っています。町の図書館から、アメリカの地図がたくさんのもつ



アメリカ合衆国の地図

ている、大きな本を借りてきました。

地図をさがして、四十八州と、首都ワシントンのあるコロンビア地区を、大きな紙に書き入れました。鉄道と大都会も、書きこみました。

「大村君、小川博士は、アメリカ大陸を汽車で横断するの。それとも飛行機かい。」

と、一郎が聞きました。

「ぼく、おじさんに聞くのをわすれてしまったんだ。」

と、孝一は答えました。

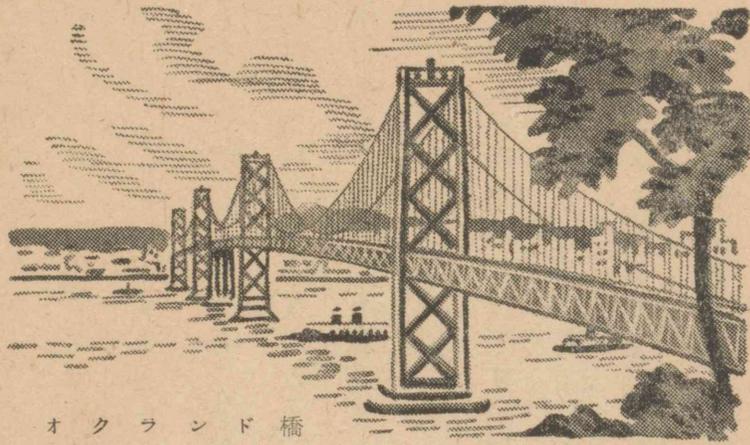
「汽車だつて、三日三ばんかからないと、書いてあつたことよ。」  
と、花子がいきました。

「けれど、飛行機だと、たった十八時間で、サンフランシスコからニュー  
ヨークまで行つてしまふんだ。」  
と、武がいきました。

### 三 新大陸から

B組あてに、小川博士から新大陸の第一信が来ました。

十七年前に、十四日かかつてわたつた太平洋を、たった三十六時間で飛  
んでしまった。金門湾かんにかかった橋、それから、サンフランシスコとオク  
ランドをつなぐハマイル半の橋を見たとき、正直なところ、ぼくはきもを



オクランド橋

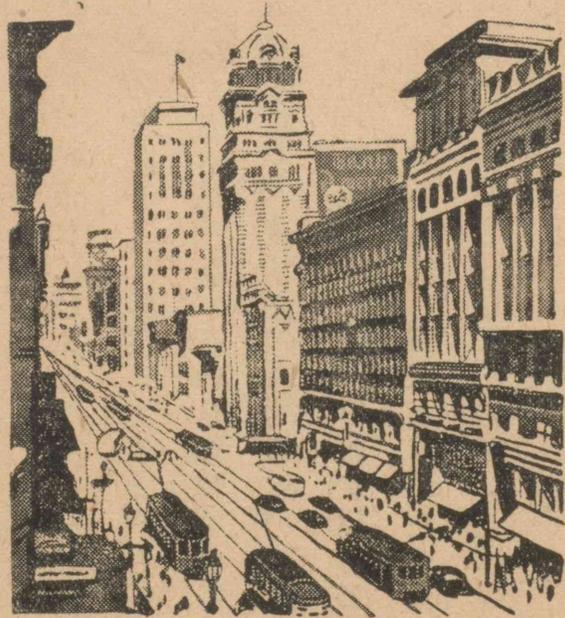
つぶしてしまった。毎日、大学の研究室、市の  
衛生試験所、病院などをまわっているが、君  
たちへの約束は、よくおぼえている。きのう、  
資料をたくさん送つた。それを勉強するとき、  
そのかげにあるアメリカの人間の心がまあと、  
努力をわすれてはならない。それがほんとう  
にわかれば、君たちは、将来どうしたらいい  
か、よくわかるようになる。おだいに。

六月十日、サンフランシスコより。

資料がどとききました。玉子ねえさんが、ほ  
ん訳をしたり、話したりしてくれれます。

孝一のおとうさんあての手紙によると、おじさんは、サンフランシスコから、汽車でロスアンゼルス市へ行き、そこからまた飛行機で、シカゴ市へ行くことがわかりました。小川博士の汽車の旅は、地図で緑色の線であらわすことにしました。大陸横断の飛行機はDC6ですから、紙の飛行機も、少し形を変えました。

サンフランシスコは、アメリカ合衆国の西側の入口です。世界でも有名な貿易港で、東洋からの商品の大部分は、この港で陸揚げされ、アメリカの製品も、たくさん、この港から世界の各地へ送り出されます。



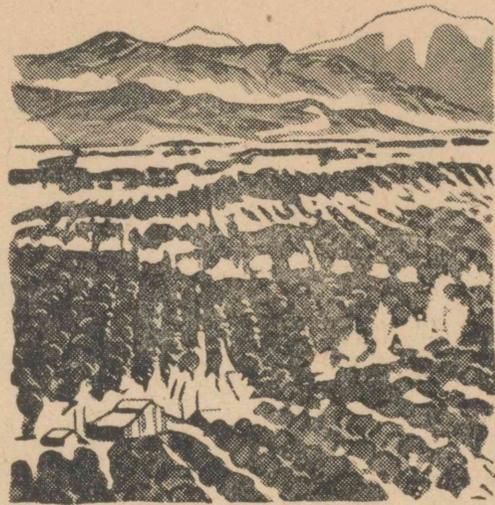
サンフランシスコ市街

れます。

今から四十五年ばかり前に、この町は、おそろしい地震にあつて、全めつしました。地震の後に火事が起こつて、三日三ばんもえつづけました。アメリカは、あまり地震のないところです。ですから、地震のあとは、きつとこわがつて、だれもこの町へ帰つてきはしないだろうと思つた人もありましたが、市民は、どんどん帰つてきました。そして、今度は地震があつてもたおれず、火事にもたえる建物をたてました。山や坂のたくさんある町ですが、けしきはよく、気候もいいので、今日では、アメリカ西海岸の文化都市として知られています。

サンフランシスコには、日本人がたくさん、商売をしたり、ホテルを開いたり、会社や工場に働いたりしています。市の近くにある農村で、すばらしい野菜や果物を作っているのも日本人です。いちご、レタイス、セロ

リ、アスバラガス、トマトなど、機械だけではできません。手をかけてよく世話をし、とり入れるときも、むぎや、いもや、わたのように、機械作



カリフォルニアの農園

業ではだめで、地にかがみ、手でもがな  
くてはなりません。日本人の作った農産  
物は、アメリカ全国に、冷蔵貨車によつ  
て運ばれます。近年では、冷凍業が発達  
し、野菜、果実など、大きな機械をトラ  
ックに積んで畑にもつてきて、ひじょう  
な低温で急に冷凍し、かちかちにこおら  
して送り出すのです。新しいのをそのま

ま冷凍にしたのですから、味がよく、いつまでも保存できるので便利です。  
小川博士は、カリフォルニア州に住んでいる日本人の生活に注意し、そ

の資料を送ってくれました。

むかし、日本から移民としてアメリカへわたった人たちは、教育のない  
ものが多く、言葉も話せなかつたので、日本人の部落を作り、衛生や健康  
にも注意せず、お金をためて日本へ帰ることばかり考えていた人が多かつ  
たのです。しかし、今日では、専門学校や大学を卒業した人たちが、農場  
を経営し、教育委員や、公安委員に選ばれ、いい市民として自分たちの責  
任をつくし、近所の人たちからも尊敬されています。サクラメント市に住  
んでいる牛島さんという人は、こう書いています。

「日本では、大学を卒業すると、手のきたなくなる畑の仕事や、服が油た  
らけになる職工になるのはいやだ」と聞くと、アメリカ人の考え方  
はちがう。なんでも勉強して、それを実地にやってみなければ承知しな  
い。手がきたなくなると、顔がまつ黒になろうと、そんなことはかま

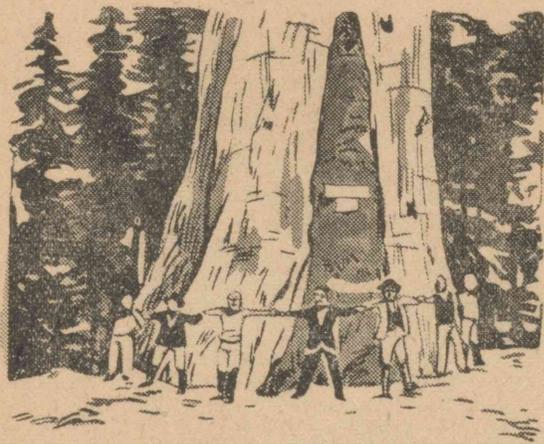
わない。科学的に、自分でやってみるから進歩するのだ。」

「むかしは、そうだったかも知れないが、ぼくたちの考えはちがうね。ぼくは、一日も早く、油だらけになって働きたくてしかたがないんだ。」

と、文六がいきました。文六は自動車は野球よりもすきて、ひまがあると自動車の修理工場を見に行くのです。

セクオイヤ国立公園の案内書が、一部はいつています。小川博士は、自動車で見物に行つたのです。地図に、黄色の線で書きこみました。

世界でいちばん古く、またいちばん大きいといわれるセクオイヤ森林には、大木が一万二千本もあつて、その高さが八十メー



セクオイヤ森林

トル、直径五メートルから六メートル半もあるのです。木のそばに立っている人間は、一寸ぼうしのように見えます。かれた木の年輪をしらべると四千年以上生えていたということがわかるのだそうです。

「火に気をつけてください。」

という揭示が、公園にたくさんあります。くまの子が自動車のまどに前足をかけて、おいしい物をちようだいとねだっています。りすだの、鳥だの、たくさんいます。

ダム絵はがきがあります。沙漠で、サボテンしか生えていなかったところに、この大きなダムを作り、今では、りっぱな果実園や、牧場になっています。

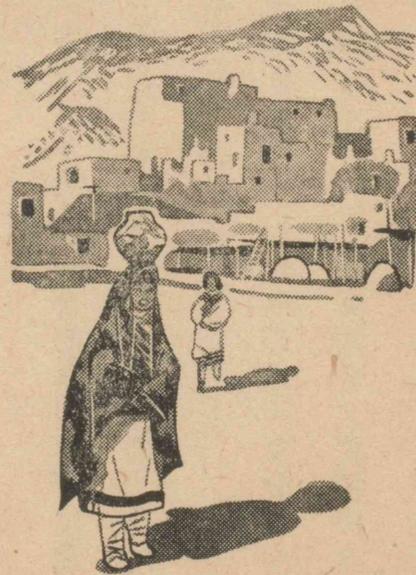
ソールトレیکیという、塩からい大きなみずうみの写真があります。長さ百マイル、はば十マイル、汽車は鉄橋を走るのです。

「あつ、どろで作った家がある。」

と、武が、大きな声でいいました。アメリカには、鉄筋コンクリートの摩天樓ばかりあるのだと考えていたので、びっくりしたのです。アドビーといつて、インディヤンの家です。

どろをよくこねて日にかわかし、それを積みあげて作るのですが、夏すずしく、冬はあたたかて住みいい家が出来るとだそうです。インディヤンの作った魔よけのトーテムポール、皮の帯、ガラス玉でかざった手さげ、毛布など、花子は写したり、ノートをとったりしています。

B組の子どもたちは、資料を分類し、目録を作り、わからないところは



インディヤンの家

参考書をしらべたり、百科辞書を引いたりしています。アメリカという国の事情が少しわかったようにも思われますが、知りたいことは、まだ山ほどあります。それに、小川博士の絵はがきにあった「人間の心がまえと努力」ということになる、みな何も知らないのです。

「百聞は一見にしかずだよ。みんなしてアメリカへ行くんだな。」

と、三吉が、こんなことをいいました。

「そんな、できないことをいつたつてだめよ。もつと勉強すれば、きっとわかると思うわ。」

と、努力家の信子がいきました。

「よし、がんばるぞ。」

と、また、みんなが元気を出しました。

#### 四 アメリカの子ども

小川博士から、六年B組にあてて、長い手紙がきました。

B組のみなさん

私は、やくそく通り資料を送っているが、それだけでは心細くなったから、きょうは、ちよつとのひまをみて、手紙を書くことにした。

君たちは、よくアメリカの物質文明について聞かされていることと思う。私の送った資料も、それをりっぱにしようこだてている。通信、交通はもちろん、日常生活も実に便利で、能率的に出来ている。衛生設備などがこの前に来たときは、くらべものにならないほど進歩している。外国から来たものは、このような進歩を、数字的にみて感心してしまう。君た

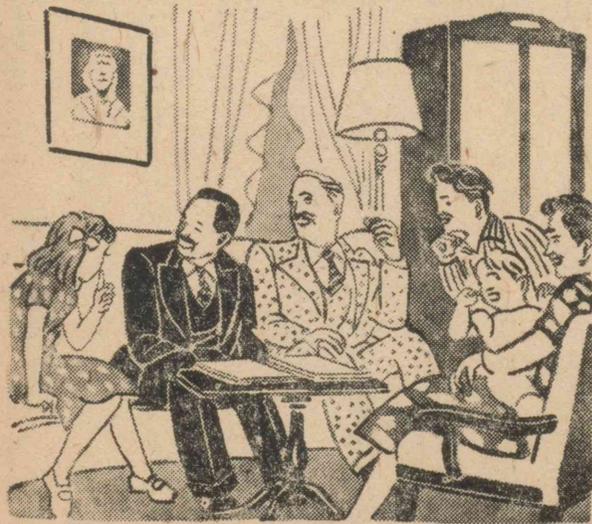
ちだつて、ロスアンゼルスの人たちは自動車を三人に一台もっているし、都会の家にはたいてい電話が引いてあるし、ラジオは二人に一台、電気冷蔵庫、電気そうじ器、電気せんたく器は、たいていの家に備えてあると聞いたら、すっかり感心してしまうだろう。そして、私の送った資料は、このような事実を知るのには役にたつが、それ以上のものを教えてくれない。科学者として、もちろん私は、事実をたいじだと考えている。事実を知らないでは論議もできないし、正確に考えることもできない。しかし、問題は、どうしてそのような事実が出来あがったかというところにあるのだ。前おきが長くなつてしまつたが、私は、アメリカの進歩が国民の心がまゝと努力の結果であること、この点をみんなに考えてもらいたいのだ。サンフランシスコで、子どものけつかく療養所りょうようじょを見に行った。ずいぶん重い病氣の子どももあるが、みんなが、なるといふ自信をもつて、医者やか

んご婦に協力している。アメリカだつてけつかく患者<sup>かんじや</sup>がたくさんあつたのだ。しかし、これを退治しようと考えて、しんけんにとつ組んだから、病気の方で負けてしまったのだ。

私はアメリカのホテルにはとまらず、なるべく友人の家の世話になるようにしている。アメリカの生活を、じつさいに見たいからだ。それできようは、子どもの生活について書いてみよう。

サンフランシスコでは、ジョン・スミスさんの家に、ひとばんとまった。

日本で生まれ、日本語のできるスミスさんは、貿易会社につとめている。十



アメリカの家庭生活

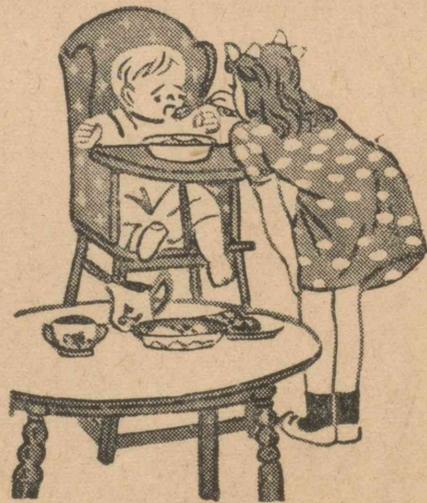
一、八つ、二つと、三人の子どもがいるが、私が夕方着いたとき、長男のヘンリーは夕刊配達に出かけて、うちにいなかった。ナンは、居間で弟のもりをしていたが、私をむかえ、うらて花に水をやっていたおかあさんをよんできた。ナンは、客室に私を案内し、コートかけを出してくれたり、せん面所にタオルや、せつけんを出してくれたりした。「おとうさんは、六時ごろ帰ります。夕食は七時です。」と教えてくれた。



弟のもりをするナン

顔や手をあらって、下へおりていくと、ナンは、いっしょうけんめい、弟に、おもちゃをかたづけようようにすめている。小さな引出しがあつて、遊んだあとは、なんでも、もとのところへおさめるのであるが、二つの弟には、なかなかそれがわからない。ナン

が自分でそれをやればかんたんなのだが、それでは弟のためにならない。なだめたり、すかしたりして、ようやく全部かたづいた。今度は、手や、顔をあらって、食事の用意をするのである。小さな子どもは、早く食事をすませ、休むことになっている。高いいすにすわっている弟に、ナンがお給仕をしている。食事がすんで、三十分ぐらいたってからおふろにはいり、ねまきに着かえ、おとうさんの帰りを待って、おとうさんにねかしてもらうのである。



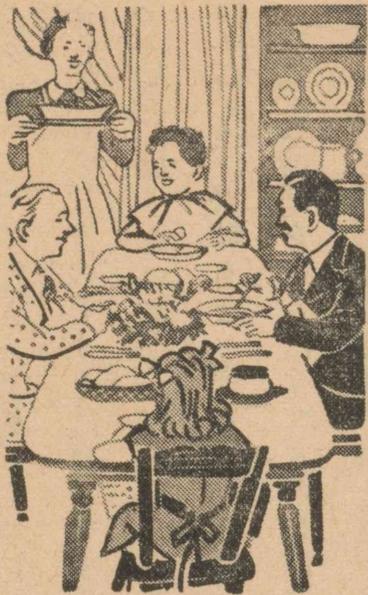
弟に食事をさせるナン

その間に、おかあさんは食事の用意をし、弟をおとうさんにあずけたナンは、食堂にさらを運んだり、コップに水をついだり、なかなかいそがしい。

新聞配達から帰ったヘンリーは、犬のマイクに食事をやり、水をとりかえ、自転車を物置にしまつて、かぎをかける。それから二階の自分の室に行き、手や顔をあらひ、かみをとかし、シャツや服を着かえ、さっぱりした身なりで食堂へ来た。みんなそろってテーブルにつき、スープがすむと、

ヘンリーがみんなのさらをさげ、肉のさらととりかえる。ナンがサラダのさらを運ぶ。

食事がすむと、家族がみんな手分けして後かたづけをするから、すぐ、きれいになる。今度は居間



楽しい食事

に集まって、テレビジョンを見ることになる。子どもたちは、八時に両親と客にあいさつして、自分の室へ行く。

月曜日はせんたく日であるから、よごれたものを集めて、おかあさんにお願ひする。火曜日、おかあさんがアイロンをかけてくださったのを、自分の室へもって行き、下着、くつした、ハンケチなど、きちんとたんすの中に入れる。室のそうじは自分でする。ふろにはいつたり、せん面器を使ったあとはいきれいにあらひ、後から来る人にふゆかいな感じを与えないようにする。時間をよく守る。人を待たせるのは失礼なだけでなく、人のたいてつな時間をどろぼうするのと同じだからである。自分の物をたいせつにするのと同様に、他人の物をたいせつにし、とくに公共の物をたいせつにする。

このようなことは、アメリカの子どもの常識となっている。だから、家庭も社会もちやんとときまりがあつて、住みごこちがいい。乗り物でも、老人、女の人などを先にして、男の子は後から乗る。順番を守る。かんたん

にいつてしまえば、アメリカの子どもたちは、早くから共同生活がなんであるかをよく知つて、住みよい社会を作るのは、自分たちの責任だと考へている。ホレーズ・マンというらしい教育者は、「今日の子どもは、明日のおとななのだ」といつた。明日のいい市民となるために、子どもたちは今日から仕事を始めているのである。だからアメリカには、子どもという特別な階級がない。みんな、社会人としてりっぱに仕事をしているのだ。この手紙は、少しむずかしいかな。帰つてから、实例についてわかりやすく話してあげよう。

六月十八日 シカゴへ行く飛行機の中で

## 五、よい隣人

小川博士の手紙で、アメリカの家庭と、子どもの生活がよくわかりまし

た。送ってもらった資料で、B組は、アメリカの学校についてしらべるところにしました。

学年は九月に始まって、あくる年六月に終わります。

「ずいぶん、夏休みが長いんだね。」

と、文六は、うらやましそうな顔をしています。

「しかし、夏休みにアメリカの子どもたちは働くんだって。わたし、雑誌で読みました。」

と、花子がいいました。

一郎は、シカゴ市のある小学校の教室の写真を出して、説明しました。



アメリカの学校

多分、これは一年生でしょう。算数遊びをしています。八つに切った白い円盤を、「 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{2}{4}$ 、 $\frac{3}{4}$ 」というように組み合わせたり、はなしたりして遊んでいます。ものさしの使い方を習うときには、生徒がひとり、かべのところに立って、ほかの子どもたちは、えんぴつで頭のとどるところにしるしをつけ、それをはかるのです。

花だんをつくるのでしょうか。数人の子どもが、学校の庭をそくりようしています。

作業室では、ラジオを組み立てているもの、電気モーターを解体しているもの、三人共同でダムのもけいを作っているものなど、みな熱心に仕事をしています。

「この教室では、何をしているだろうか。」  
と、武が写真を一まい出しました。

むかしの植民地会議が開かれています。アメリカが独立する前には、十三州の植民地がありました。首都ウィリヤムスバーグの議事堂に、代表が集まって、財政、政治について議論をたたかわせているのです。各州を代表する生徒は、総督の質問に答えます。

「バージニア州では、何をおもに生産していますか。」

「わたしたはこです。」

「何わり、海外に輸出していますか。」

「約八わりです。」

「州の財政はひじょうにゆたかなのだから、イギリス本国がいう植民地の税金は、不当だとは思わない。」

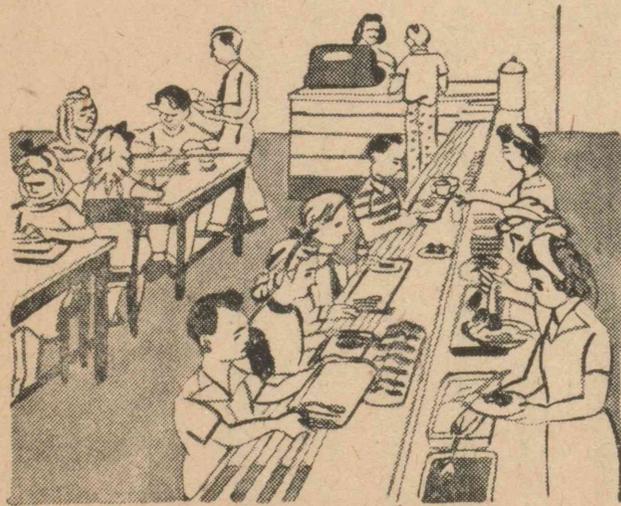
と、総督がいいました。

「税金の額を問題にしているのではありません。植民地は、本国の議会に

代表を送っていません。植民地は、自由、独立の国であって、税金を本国へ出す義務はありません。」

アメリカの子どもは、歴史を、このようにして、自分たちでじつさいにやってみるのです。

花子たちは、カフェテリア式の食堂に興味をもちました。入口で、おぼんとさじやフォークを取って列にならび、ミルク、パン、スープ、サンドイッチ、アイスクリームなどならんでいる中から、自分のほしいものを選び、会計にお金をはらって、食堂でたべるのです。



カフェテリア式食堂

「ここに、アメリカの公共図書館の写真があるが、子どもの読書室はすばらしいね。」

と、孝一がいいました。



図書館の子ども室

アメリカの町には、りっぱな公共図書館があります。その多くは鋼鉄王といわれるアンドリュー・カーネギー（一八三五—一九一九年）が、たくさんのお金を寄附して建てたものです。民主主義の国では、法律は国民が作り、政治も、社会の改善も、自分たちの手でやるのです。そのためには、国民全体が、正しい考えと、いい判断力をもっていなければなりません。正しい考え

と、判断力のある国民を作るためには、いい学校と、だれでも自由に無料で使用できる図書館が必要で、カーネギーは、一千万ドルの基金を出して公共図書館の建設にあてました。

公共図書館は耐火建築で、だいたい町の中央にあります。ひる休みの時間、買物に行つてあまつた時を利用して、ここで本が読めるように、便利な場所を選んで建てられています。広い、子どもの読書室があります。本だなは低く、小さな子どもでも手がとどきます。上のかべには新しい写真子どものかいた絵、世界の名画など、毎週新しくちん列します。けいじ板には、今週のプログラムが出ています。講堂があつて、学校が終つてから、音楽会、お話の会、えい画、げきなどがあります。

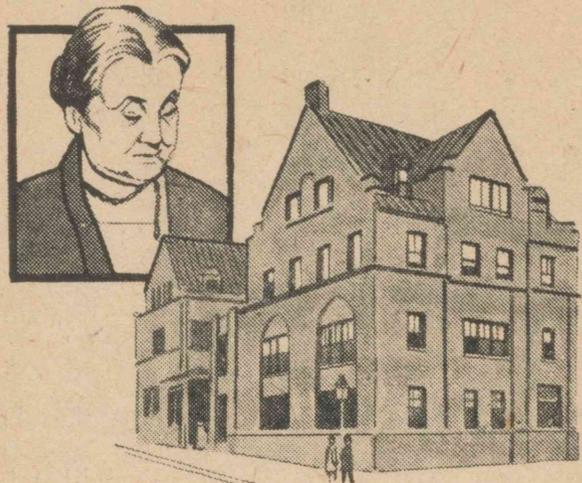
小川博士が、シカゴ市からB組に送つてくれた資料のうち、子どもたち

をもつとも感げきさせたのは、ハル・ハウスの話でした。

銀行家のむすめジェーン・アダムズは、子どもの時せきずいの病氣にかかってあまり健康でなかつたので、おとうさんは、毎日、馬車でジェーン

を散歩につれていきました。ジェーンが六才の時でした。木や花を植えた、広い庭のある大きな家のならんでいる通りを過ぎ、きたない、ごみごみした町へ出ました。たおれかけた長屋がならんで、木も花も、一本もありません。

「なぜ、この人たちは、こんなきたないところに住んでいるのですか。どうして、大きなきれいな家に住むことがで



ジェーン・アダムズとハル・ハウス

きないのでしょうか。」

と、ジェーンは、おとうさんにたずねました。

「世の中には、びんぼうな人と、お金持ちの人とあるのです。びんぼうな人たちは、よい家に住むことができないだけでなく、ときには食べる物を買うお金がないのです。」

と、おとうさんが説明しました。

「私がおとなになったら、まずしい人たちの住んでいるところに、私は家を建てて、みんな私の家へ来て遊べるようにしましょう。」

と、ジェーンがいました。

二十年后に、ジェーン・アダムズは、シカゴのいちばんきたない町に、大きな家を一けん買って、ペンキをぬり、絵をかべにかけ、ピアノを置いて、近所の人たちがきてお茶をのんだり、本を読んだり、音楽を聞いたたり

できるようにしました。子どもたちは、ジェーンの庭へ来て遊びました。工場へ行く母親は、子どもをジェーンにあずけて出かけました。病人があらると、ジェーンをよびに来ました。少年クラブも出来ました。これはアメリカでさいしょの少年クラブで、今日では、全国に二十七万人の会員をもっています。

ジェーンの家はハル・ハウスといわれて、毎日、二千人の人たちが出入りするようになりました。体そう場、食堂、図書室、寄宿舎が出来ました。ジェーンのすばらしい仕事を聞いて、助けに来る人がたくさんできました。ハル・ハウスは、まずしい人たち、職を失った人、親をなくした子ども、働くことのできない老人などの楽園となりました。ハル・ハウスの近くには、二十六か国からの移民が住んでいて、言葉の通じないのと、風俗習慣のちがうのとで、いつもけんかがたえなかつたのですが、ジェーン

・アダムズは、この人たちの国々の美しい習慣と、アメリカの自由平等の理想を、みんなにわからせるようにしました。そして、みんなでなかよく、楽しくくらすようにしたのでした。

ハル・ハウスの仕事だけでなく、ジェーン・アダムズは、いつぱんに子どもや、まずしい人たちを、助け保護する方法を考え、新しい法律を作るために努力しました。それで、だんだんと、工場や商店などに働く人たちの賃金が増し、労働時間も短くなりました。

一九一四年、世界戦争が始まりました。平和を愛するジェーン・アダムズは、戦争に反対し、平和のために戦いました。一九三一年、戦争が終つてから十三年目に、ジェーン・アダムズはノーベル平和賞をもらいました。湯川博士は、物理学に貢献したから、ノーベル物理学賞をもらったのですが、世界の平和と人類の幸福のために一生をささげた、ジェーン・アダム

ズは、この世界最高の名譽賞をさずけられたのです。

「王冠のないアメリカの女王」、「アメリカの聖人」とよばれ、愛され、親しまれたジェーン・アダムズは、しかし、「よい隣人」とよばれるのが、いちばんすきでした。

## 六 ニューヨーク研究報告会

孝一の報告によると、小川博士は、シカゴ市から、特別急行列車二十世紀号で、ニューヨークへ行くということでした。

「ぼくは、デトロイト市にちゃんとしるしをつけて待っていたんだが、がっかりしてしまった。」

と、文六がいいました。自動車にむちゅうの文六は、小川博士がフォード工場を視察して、資料を送ってくれるのを、楽しみにしていたのです。

「ナイヤガラのためにも、す通りね。」

と、花子もがっかりしています。

「だって、しかたがないよ。おじさんの今度の旅行は、見物のためではないんだから。」

と、孝一がべんかいています。

小川博士から資料が着きました。よく気のつく一郎が、ふうとうを手にして、

「この消印を見たまえ。」

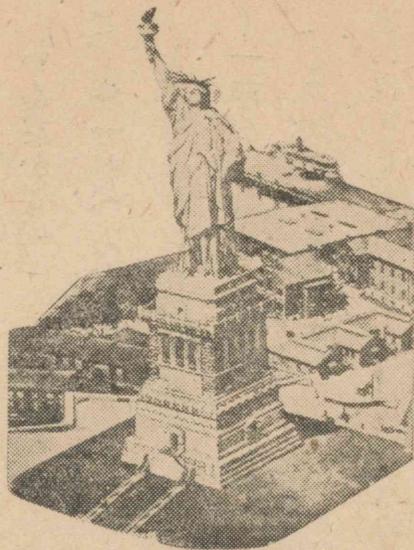
といました。「十九日午後八時、ニューヨーク」というまるい消印のよこに、「東京中央郵便局、二十四日」と、同じ形の消印があります。

「日本には、時間が書いてないね。しかし、今配達になったんだから、



外国からの手紙

二十四日の朝早く着いたんだらう。すると、ニューヨーク東京間を、まる四日半で飛んだことになるね。」  
と、武がいました。



自由の女神

「あつ、これ、自由の女神でしょう。」  
「これは、エムバイヤ・ステート・ビルディング。」  
「これはなんだらう。地下鉄かな。」  
みんな、目をまるくして、絵はがき、写真、図解を見えています。

「こんなたくさん材料があるのだから、グループに分けて研究したらどうだらう。」

と、一郎がいました。みんな賛成しました。四グループに分けて、次の

ようにきめました。

第一グループ——今日のニューヨーク市

第二グループ——学校、図書館、美術館

第三グループ——交通

第四グループ——生活

すると孝一が、

「ここに、おもしろい絵や、写真がたくさんあるが、これは、地下のいろいろな仕事らしい。」

といました。それで、これを第五グループにわりあてました。

第五グループ——地下の仕事

だいじなところは、玉子ねえさんにほん訳してもらい、みんなで研究して、一週間後に報告会を開くことにきめました。

— 研究報告会 —

一郎が、司会者に選ばれました。だんに立って、一郎はいいました。「私たちの海外特派員、小川三郎博士から送っていただいた資料によって研究した、ニューヨーク市についての報告会を開きます。第一グループからお願い致します。」

孝一が立って、次のように報告しました。

世界でいちばん大きな都会ニューヨーク市は、人口八百万をこえるといわれています。アメリカ合衆国の表げんかんで、港の入口には、自由の女神が、世界各国からの客をむかえています。

五つの区から成っていて、中心のマンハッタン区は、一つの小さな島な

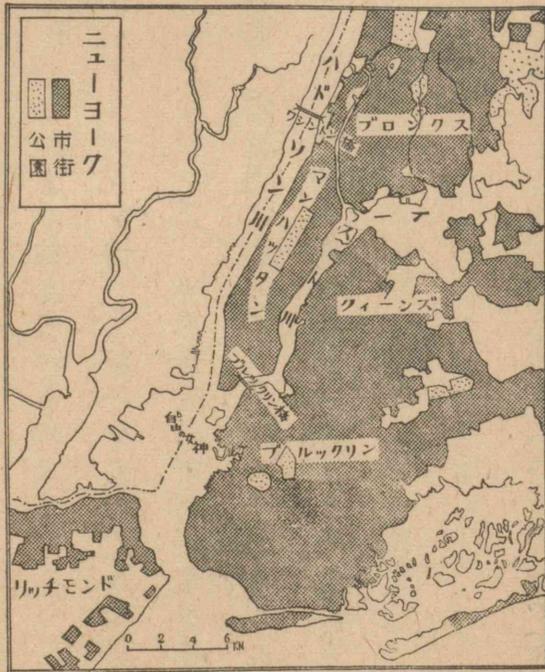
のです。ハドソン川とイ

ースト川にはさまれ、一方は大西洋に面しています。今から三百五十年前には、この島はぬま地で、インデイヤンが住んでいました。

島にわたってきたイギ

リス人が、たった二十四ドルで、インデイヤンから買い受けました。今日では、ニューヨークの一インチ四方の土地でも、このくらいのねうちがあるといわれています。

ニューヨークの人口八百万余のうち、二百万は外国で生まれた人たち、



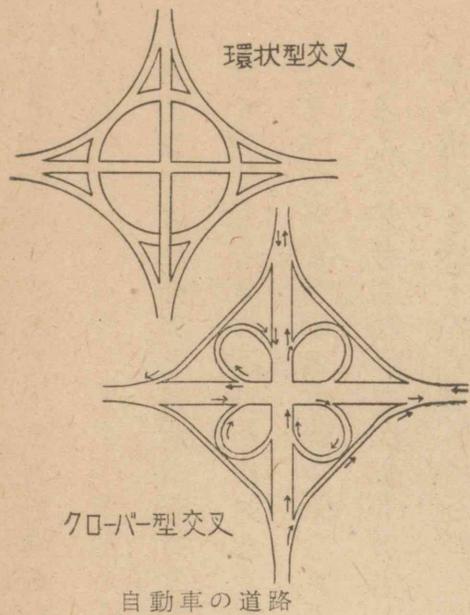
ニューヨークの地図

二百七十万は、外国で生まれた両親をもった二世です。イタリヤ系の人  
四十万、ロシヤ系が三十九万五千、ドイツ系が二十二万五千、中国人が一  
万二千余、戦争前には日本人が約三千人いたということです。このほか、  
ユダヤ系の人二百万、黒人が五十万近く住んでいます。全体で七十余か  
国の人たちが、この大都会に、なかよく住んでいるのです。

孝一は、有名なジョージ・ワシントン橋、二万七千人の人たちが働いて  
いるエムパイヤ・ステート・ビルジング、世界最大の野球場ヤンキー・ス  
タジアムなど、目に見えるように説明するので、B組の子どもたちは、ゆ  
うらんバスに乗って、ニューヨーク市を見物しているような気持ちになり  
ました。

第二グループは、全員が登場しました。図書館、美術館、歴史博物館、

植物園、動物園、コロンビヤ大学、公立学校、病院、ロックフェラー・セ  
ンターにあるえい画げき場など、せなかに大きな絵や写真をつけて説明し  
ました。コロンビヤ大学の中にある小学校は、都市計画を考案して、理想  
の町を作りました。六年生は、地下室にゆう便局を開いて、ふつうのゆう  
便物はもちろん、書留、速達、航空便までとりあつかっています。



第三グループは、文六がしきして、  
大都会では、自動車交通をどう整理  
しているか、もけいを作りました。  
一方交通や、複式交通は、すぐわか  
りますが、クローバーがた交叉や、  
環状がた交叉はちよつとむずかしい

ので、文六は、おもちゃの自動車を数台もってきて、じつさいに走らせてみました。

「自動車は、地面の上を走っているでしょう。一本の道路を走る自動車の数が多くなると、速度が出せなくなるだけでなく、走っている時間より、止まっている時間の方が多くなるんです。なにしろ、四つ角がたくさんあるんですからね。だから、ゴー・ストツブがいらぬように、交叉しない道路を作るのです。」

と、文六が説明しました。みんなは、

「やはり専門家はちがうね。」

といつて、文六の説明に感心しました。

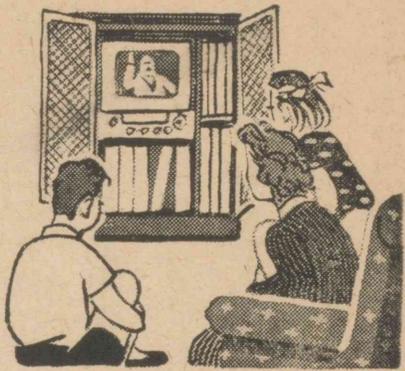
第四グループは、花子の責任です。「一日の生活」という題をつけ、大き

な紙に、新聞や雑誌から切りぬいた絵をはりつけたり、図や統計表を書いたりして、教室のかべにはりました。

「みなさん、二列にならんで、左へ進んで下さい。グループのものがみんなて説明しますから。」

と、花子がいいました。

市内にある三十つぼほどの、独立れんが作りの家屋です。家族五人、主人はガス会社につとめ、おくさんは、近所の病院の事務員です。十六才と十四才の男の子は中学校に、十二才の女の子は小学校にかよっています。ベルをおしてげんかんにはいると、電話があります。コートやぼうし、雨ぐつなど入れるおし入れが右側にあり、左は居間です。正面に階だんがある、二階はしん室、三階の屋根うらは物置です。居間にはいると、まず、テレビジョンのセットが、目につきます。去年、家族が、おたがいにくり



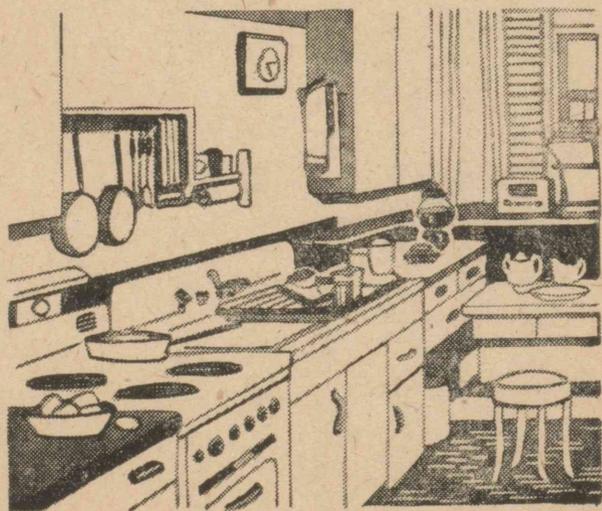
テレビジョン

スマスのおくり物をするかわりに、お金をためて、この新しいセットを買いました。ラジオは、二男のネットが部分品を買って、学校で組み立てたのです。古いかたのちくおん機が一台あります。土曜日の夜、友だちが集まったときなど、レコードをかけて遊びます。

電燈のスイッチとやらんで、かべに長方形のはこがついています。これは、暖房と冷房の調節器で、このメートルによつて、室の温度を調節するのです。居間の次は食堂だったので、今はこれを子どもの勉強室に使い、台所の一部を改造して、家族の食堂にしました。客のあるときには、居間で食事をします。

台所は日あたりのよい、明かるい室です。流し、調理台、ガス、ストー

ブ、冷蔵庫、食器や台所道具を入れる戸だななど、部屋のかざりつけのようになっています。ガスの料理用ストーブは、四つのコンロがあります。そのまん中に小さなほのおがいつもついていて、それが火をつける役をするので、マッチをする必要がありません。こんろの下はてんぴになっていて、自動調理器がついています。時計じかけのてんぴといたらいいでしょう。ニポンドの牛肉のローストをこしらえるときには、中火で約一時間かかります。七時の食事のときには、ローストをてんぴに入れ、六時にはりを合わせておくと、外出していても、その時間に火がはいて、

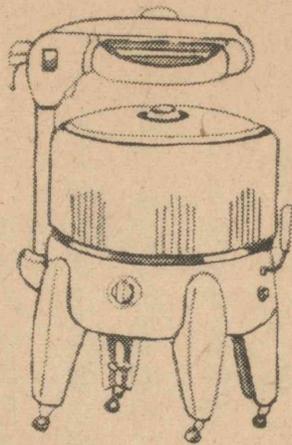


台所

食事までにちゃんと調理されています。

「白いせとの流しは、せんをするのと四角なたらいのようになって、粉せっけんを入れて、なべや食器があらえますから、料理屋でもなければ、電気さらあら器はいりません。」

と、花子が説明しました。



電気洗たく器

地下室には、せんたく室があつて、小がたの電気せんたく器が一台あります。粉せつけんと湯を入れ、よごれたものをほうりこんで、スイッチをひねると、中にある小さなプロペラがぐるぐるまわつて、きれい

にあらわれてしまうのです。たくしぼります。

二度ゆすいで、さいごに分離器にかけて、か

地下室の一角には、重油をたく暖房装置そうちちがあります。このボイラーで湯がわき、夏冬ともに、二十四時間お湯を使うことができます。ボイラーのよこに小さな室があつて、大工道具や、ねん土、ラジオの部分品などが置いてあります。つかれて会社から帰つたこの家の主人は、夕食後や休日に、この室へ来て、家具だの、鳥のはこだのを作ります。長男はねん土ざいくがすきて、今にちようこく家になるのだといっています。二男は、おこづかいかせぎに、近所の人たちのために、ラジオのしゅうぜんをやっています。

二階には、しん室が三つあつて、主人たちのは大きな室で、男の子二人は、上下にしん台のついた小さい室です。とまり客があるときには、女の子が両親の室にある長いすにねて、自分のしん室をあけます。

浴室の天井てんじやうには、紫外線しがいせんのランプがついていて、朝、歯をみがいた

り、顔をあらったりして、いる間、スイッチをひねっておくと、一日中日光にあたらなくても、健康でくらすことができます。

武は、花子たちの説明を聞いて、

「すばらしいね。」

と、いきました。ゆめのような家で、しかも、アメリカでは、ふつういっばんの人たちが、そのような家に住めるということが、うらやましいのです。

「しかし、一日中留守にしておいて、だいじょうぶなのかなあ。」

と、じつさい家の三吉が、ひとりごとをいいました。

「となりが近いから、朝みんな出かけるとき、かぎをあげて、ゆう便が来たり、ガスや電気のメートルを見に来る人があつたとき、たのんでおくのです。」

と、花子が答えました。

六年B組が大きな期待をもっているのは、ニューヨーク市の地下にあるいろいろの仕事です。一郎が第五グループの責任者ですから、司会を花子にかわってもらいました。

「一八八八年の冬、ニューヨーク市は大雪にみまわれ、数日の間、交通もとだえてしまいました。そのとき、アメリカの大発明家トーマス・エジソンが、長い目で見たら、交通とか通信とか、その他の公共事業は、地下に置いた方が安くつくといいました。これがきっかけとなって、今日のような、大がかりな地下の文化都市が出来たのです。」

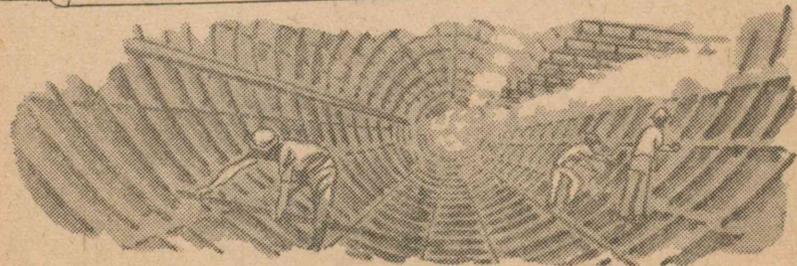
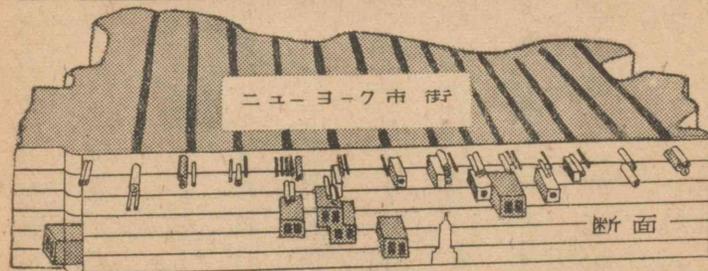
と、話の上手な一郎は、みんなの注意を一身に集めながら、きりだしました。

第五グループの子どもたちは、いそがしそくに、自分たちの作った図や統計表を、かべいっばいにはりました。

エジソンの忠告に従って、ニューヨーク市では、電信、電話、電気、ガス、水道、下水、その他文化生活になくはならぬ重要な組織を、地下にもっていきましました。そ

して今日では、下の表でもわかるように、大じかけな地下組織が出来ました。

線管管管	19,472(km)
力話水道水	6,585,523
電ガ水	1,931
下	1,246
暖房の熱輸送管	961
地下鉄と鉄道のトンネル	87
ゆう便物発送の気送管	109
	43



ニューヨークの地下施設

の長さで、引きこみ線は算入してありません。

市内の大きな建物は、別々に暖房装置をもっています。大きな輸送管で、六万八千六百一のビルジングに熱を送っています。気送管は、一時間四十八キロの速さで、ゆう便物を局から局へ運んでいます。水道の本管は、地下二百二十八メートルの深いところにあります。地下鉄の入口は五百二十四あって、地下に五十六メートルおりて行かなければならないところは、エレベーターがあります。広いハドソン川の下には、自動車専用のトンネルがあつて、毎日平均三万四千台が通っています。

しかし、もつとおどろくのは、市の中央にあるグラランド・セントラル停車場で、一九〇三年に建てはじめ、十年かかって完成しました。二百七十万平方メートルの土地を、二十メートルほつて建てたものです。毎日、五百の列車が発着していますが、通勤時間には、二十秒に一列車のわりあい

で動いています。年平均六千百万の旅客をとりあつかっています。地下鉄に乗る人、見送り、出むかえ、見物に来る人を入れると、年一億八千二百五十万の人たちが、この駅にははいりしていることになりました。

B組の子どもたちは、一郎の報告にびっくりして、だれも質問するものがありません。

「ゆめのようだね。」

と、文六がいました。

「いや、そのゆめを、ほんとうのものにしなければならぬ。これで、ほ

くは、新しい都市計画が頭の中にできたよ。」

と、孝一がいました。

## 七 世界の議会の母

B組のみなさん。

私は、ニューヨークからロンドンへ飛んできた。これから先は、かけ足旅行で、資料を集めて送る時間もないと思う。それにアメリカとちがって、紙が不足しているので、案内記や、ポスターや、絵はがきなど、無料で旅行者にくれるところが少い。しかし、特派員として、私は責任があるから、この手紙を書いた。

ロンドンには、ニューヨークなどちがって、世界の古い都だ。テムズ川にまたがるこの大都市には、ロンドン橋や、タワー橋や、ウェストミンスター橋や、たくさん橋があつて、ちょうど東京の隅田川すみがはのような気がする。町の通りも不規則で、曲がっているのが東京らしい。

ここには、世界で有名な大英博物館をはじめ、大きな博物館や美術館がたくさんある。その豊富な歴史的遺物、すばらしい名作を、ちよつと見て



ロンドンのタワー橋

歩いただけでも、なんだか世界歴史がわかり、美術史がわかるような気がする。

きょうは、イギリスの議會を參觀した。テムズ川の近くにあるウエストミンスター広場に、有名なウエストミンスター寺院と、英国議會議事堂とがある。このあたりは、ロンドンでも、いちばん美しいところであろう。議事堂は、堂々たる建物で、七百年の英国の憲政の歴史をものがたり、「世界の議會の母」とよばれている。どらのようなかねがなつたので、私がきよと

んとしていると、議場にゐる人たちが、みんな起立した。議長が来るのだ。礼服にゲートルをまいたような衛士が先にたつて、次に衛士長がほこのよ

うなつえをかつぎ、そのあとから、かつらをかぶり、長いマントのようなものを着た下院議長が歩いて行く。

原子時代ともいわれる今日、なんて古風なやり方だと、君たちはわらうかも知れないが、これが英国なのだ。いいこと、美しいことは、だれがなんといつても、そのままやっていくが、悪いことだったら、びたつとやめてしまう。伝統はたつとぶが、またそれを批判する勇氣と良識をもっている。

英国の議員は、ろうかやひかえ室では、みんな名前をよびすてにしている。前首相のウインストン・チャーチルはウイニーで、外相のアンソニー・イーデンはアーニーである。国民の代表であるかれらは、みな平等で、位もかた書きも問題ではない。しかし、一度議場へはいつて討論になると、相手をかならず「私の尊敬するあなた」とよびかけるのである。どんなに

くらしい相手でも、このように礼ぎをつくすのであるから、失礼な言葉は口から出ないし、取っ組みあいなど思いもかけないことである。自由と規律、これも英国から私たちの学ばねばならぬ点だ。

けさ、私が議会へ行つたのは、食料や衛生の問題が討論されるからであつた。英国の食料の大部分は海外から輸入されるので、まだ、ひじょうにきゅうくつだ。配給制度が今日でもつづいてゐるが、国民は決して不正をしない。自分たちで作つた規則を、どんなにつらくても、自分で破るようなことをしない。みんなて話し合つて改善することにつとめてゐるのだ。「なぜ、最近、肉の配給が悪いか。」とか、「病院のベッドの数がたりない。」とか、「なぜ、毎ばん、停電するのか。」とか、みな国民の生活に重大な問題ばかりで、大臣は一々それに答え、よい解決方法をみんなて考へるのである。婦人議員が、「市中にこんな悪いキャンペーンが、政府の許可を受けて

売り出されてゐます。」といつて、紙ぶくろを出した。すると食料大臣が、「それは、それは。」といつて、その紙ぶくろを受け取つた。私といつしよに行つたイギリス人が、

「あれは、二、三日の中に、はん売禁止になるよ。」  
といつた。

これが、ほんどうの政治なのだ。おだいじに。

## 八 平和の国

B 組のみなさん。

ベルンの会議もあすで終り、私はイタリヤの首都ローマに行き、ひとばんとまつて、次の日また飛行機でニューヨークへ行く。アラスカを通り、アリュウシヤン群島を通過して、東京へ帰るつもりだ。最大急行で飛んで

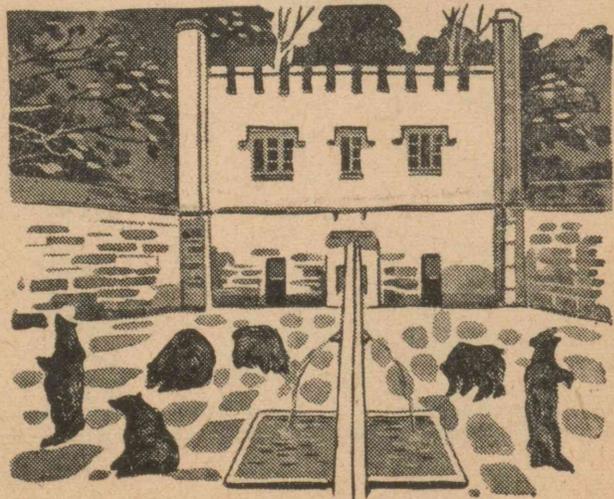
いくので、これが最後の通信となるであろう。

一一九一年に建設されたこの都市は、海拔五百六十メートルの高原にあつて、アール川にのぞんでいる。ベルンは「くま」という意味で、市章はくまをあらわしている。アール川の岸にかこいをしたところがあつて、くまがたくさん遊んでいる。市庁は、今から五百五十年前に建てられたもので、その他、古い教会、博物館、美術館などあつて、リッパな文化都市である。私は、ベルンの貧民くつたと教えられて、見学に行つたら、アール川の岸に面して、リッパな家がならんでいるのを見た。建物は古いし、庭などはないが、日本だつたらすばらしい住宅街じゅうたくがわといつたものなので、おどろいてしまった。町の清潔なこと、バスや電車がたくさんあつて、便利なだけでなく乗りごこちのいいこと、町を歩いている人たちの服そうがきちんとしていることなど、すぐ目についた。食物はたくさんあつて、おいしい。

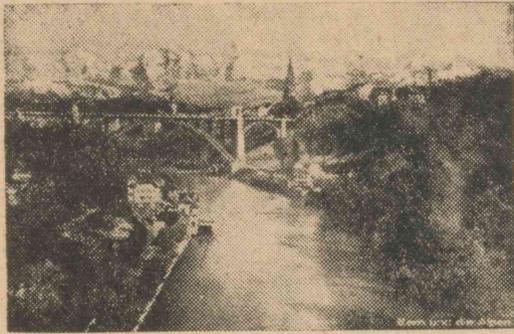
い。町にはふん水があつちこつちにあつて、さかんに水をふき出している。こじきや、浮浪者うろうろは、ひとりも見かけない。

スイスは観光国で、夏は世界のあらゆる国々から、見物や避暑ひしょの客が来る。スキー、スケートなど、スポーツがさかんだから、冬にも、やつてくる客が多い。

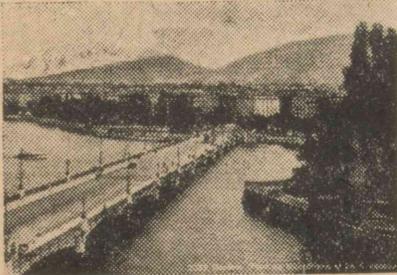
町が清潔で、国民は健康で、また正直でよく働き、ホテルもいいのがたくさんある。交通や、通信も便利だ。観光国として、条件がよくそろつている。日本も将来、スイスに次ぐ観光国にならうとしていなのだ。私は資料をもつて帰るから、君たちにも、どうしたならいいか、大いに考えてもらいたい。



スイスのくま



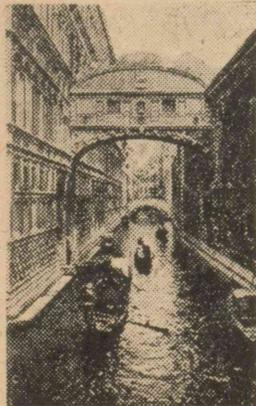
ベルン



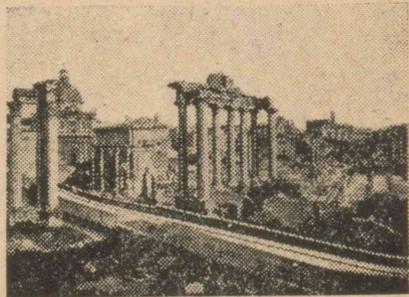
ジュネーブ



スイスの山

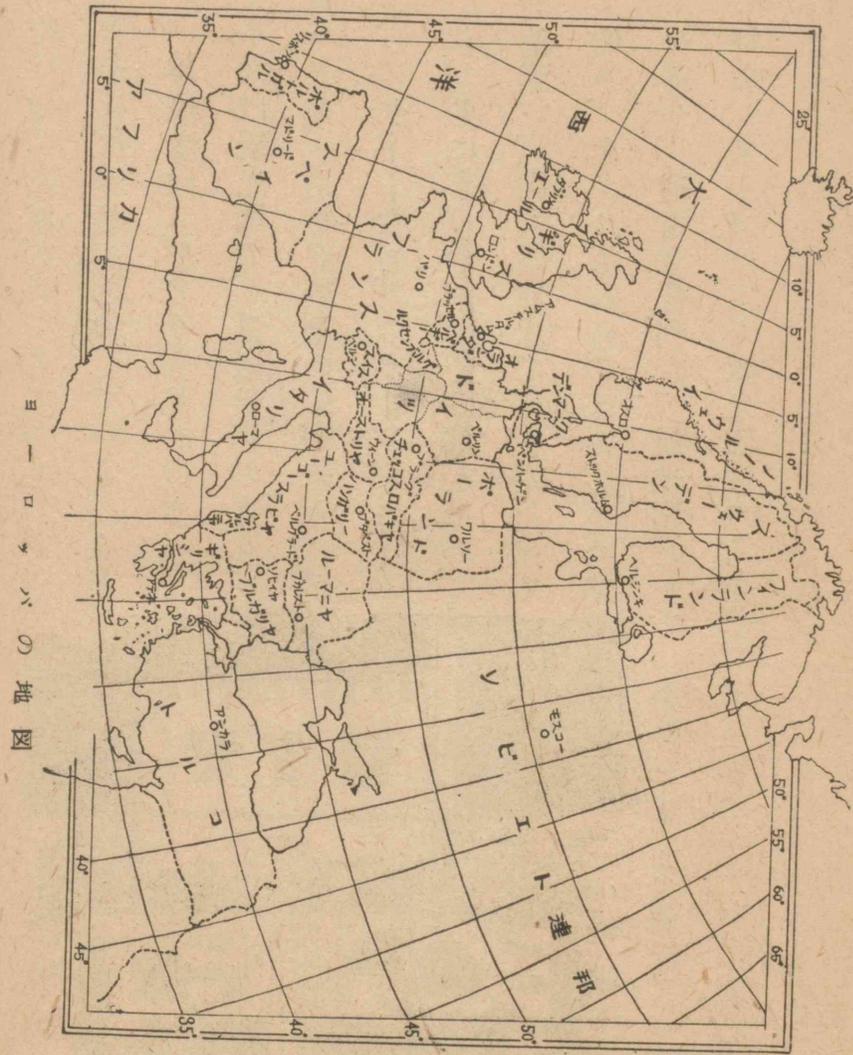


ベニス



ローマ(遺跡)

ヨーロッパの風景 (スイス・イタリア)



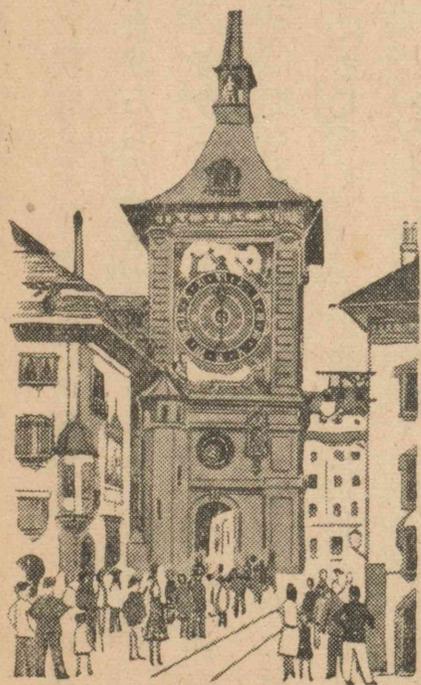
時計やその他の精密機械、せんい工場もたくさんある。この点も、日本とよく似ていて、私たちの参考になる。

時計といえは、ベルンの市内でもしろいを見た。それは、町の歩道の上に立っている古めかしい大時計塔で、ベルンの名物になっている。ちようど夕方五時前に、私はそこへ行ってみた。

五時三分前に、まず仕掛のクツクロー鳥が、のどかにないた。すると、時計の中から、小さく音がたくさん出てきて、表時板のまわりをぐるぐるまわった。やがて上の方の人形が、小さいベルを五つならした。それからまたクツクロー鳥がないた。ちようど五時というとき、時計の中央にしかけてある人形が、持っているばちを動かした。すると時計塔の大きなベルが、音高く五つなった。そして最後にクツクローがないて、それで時報は終わった。大勢の人が見物していたが、これは君たちにも見せてあげたかったよ。

スイスは、食料の大部分を輸入しているが、牧畜業がさかんで、スイスのチーズは世界的に有名だ。耕作のできないところは、みな牧場にして、牛、やぎ、ひつじ、ぶたを飼っている。もうひとつ、私が感じたことは、植林で、はげ山なんか、どこにもない。

スイスの子どもは、よく勉強する。夏休みには、同年级の子どもたちが、四十人くらい一団となって、アルプスの山や、ジュネーブ湖のほとりなどで、集団生活をする。けしきのいいところに、小学生の夏休みのために宿舎が建ててあって、先生につれられて、こ



時計台

こて数週間を過すのである。朝は六時に起き、小川で顔をあらひ、深ききゆうをして、黒パンとミルクの朝食をたべる。朝二時間勉強し、その後は水泳、工作、散歩、なんでも自分たちのすきなことをする。おひるのころはみんな自分たちの宿舎に帰つて、三十分ベッドの上で休むことになつてゐる。午後は山登りに行くものもあるし、川へ魚をつりに行くものもある。いなかの人たちにまじつて、民謡を歌ひ、むかしの衣しやうをつけて、ボルカとやうおどりをおどる人たちを見物したりする。しかし、集団生活でもつともたいせつなことは、自分のことは自分でするという習慣を、はつきりと身につけることと、共同生活のこつを学ぶことである。時間を守ること、



スイスの子ども

規則に従ふこと、自分よりみんなのことを先に考えることなどである。このようなことは、私たちはよく知っているが、じつさいにやってみると、なかなかむずかしいものである。しかし、スイスの子どもは、小さいときから、将来のよい市民になる訓練をつんでゐる。

こんどの会議に、中国から王秀英博士わうしゆえいといつて、女のお医者さんが来ていた。私は王博士といろいろ話をしたが、王さんは、いい技術者と医者だが、中国に必要だといわれたが、日本でも同じことがいえよう。それに、よく働く人たちがほしい。八時間労働するというのは、八時間職場にゐるという意味ではない。その時間にあたいするだけ、生産しなければならぬ。君たちの勉強だつて同じことだ。何年学校へ行つたつて、勉強しなければ意味がない。

王博士とは、そのほか、いろいろ話をした。私はいつた——中国と日本

とは、二千年以上のむかしから、国民の往来があつた。紀元六七四年には、日本政府から中国に公の使を出し、その後も長くそれをくりかえした。文字をはじめ、当時の中国の進んだ文化を受けて、日本は発達した。一六三六年以来二百年間、当時の日本の武家政府が、外国との交際をしなかつた時代でさえ、中国とオランダの船だけは、長崎へ来ることになつていた。ほとんど日本の大むかしから、こうしてつづいてきた日本と中国との交際は、全く平和の交際であつた。最近数十年、世界情勢の変化から、この、いわば兄弟ともいふべき二つの国が、しばしば不和におちいつたのは、まことに不幸であつた。日本は、今度すっかり生まれ変わつて、平和な民主国家となるために、政府も国民もいっしょうけんめいである。もし、中国と日本が、この際ほんとうの自由な民主主義の国として手をにぎることができたら、それは単にアジアの幸福であるばかりでなく、世界の幸福である。

私は、そういう時代が、かならず近い将来に来ることを信じてうたがわないうと、王博士にいつた。王博士も、私の熱心な言葉に、じつと耳をかたむけて、うなずいていられた。

とにかく、世界を旅行して、日本がどんなにおくれているかが、私にはよくわかつた。問題は、どうして追いついていくかである。私たちも、うんとがんばるが、私は、君たちに大きな期待をかけている。今から、その心がまえで、しっかりとやってくれたまえ。お願いしておく。

## 九 日本の将来

六年B組の海外特派員小川三郎博士が送つてくれた資料と通信について、きょうはみんなが問題をもちよつて、相談することにしました。孝一が司

会者です。

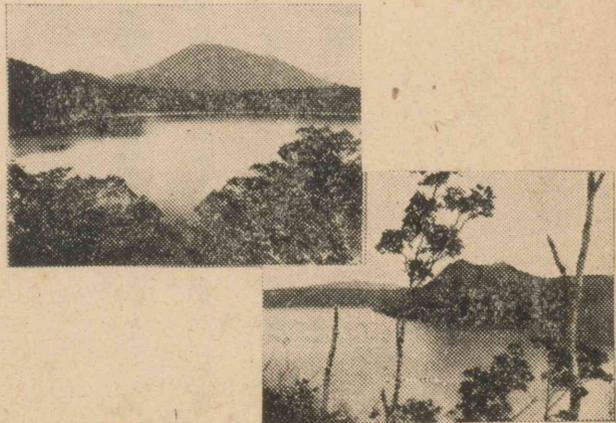
「いろいろ問題がありますが、今日は日本の将来ということを主にして考えてみたらどうでしょうか。」

と、孝一がいました。

「日本は食料がたりないのだから、外国にない物をたくさん作って外国に送り、交換しなければなりません。生糸、茶、機械など輸出するのです。」

と、花子がいました。

「生糸はあまり望みがないと聞いています。小川博士のいわれるように、観光事業に力を入れることです。」



わが国の国立公園 霧島山と阿寒湖

と、武がいました。

「それには、日本をもつときれいな国にしなければだめだ。衛生的にね。ニューヨークのような水道とか、下水を完成しなければならぬ。」

「もえない家を建てることです。」

「道路をよくして、交通を便利にすることです。」

「こじきや、浮浪者をなくすことです。」

「仕事がたくさんあって、働くことのできる人がみんな働き、高い賃金がもらえるようになれば、そんな人はなくなるでしょう。」

と、一郎がいました。

「しかし、あの人たちの中には、病気で働けない人もあるのだから、病院を建てて、よくせわをしてあげなければなりません。」

と、花子がいました。花子は、シカゴ市のハル・ハウスのこと、ジエー

ン・アダムズのすばらしい仕事を考えていたのです。

「ぼくは、やはり科学の発達が、いちばんたいせつだと思う。」

と、孝一がいいました。そして、三郎おじさんの送ってくれた資料の中に、アメリカの科学者、バーネバー・ブツジのいった言葉を思い出したのです。

「国民の健康、生活の向上と安定は、政府の大きな仕事であるが、これはみな、科学の進歩によるものである。科学の進歩がなければ、国民の健康は低下し、社会の安定も望まれないし、自由をさえ確保することができない。」

みんな、科学がどんなに重大なものであるかは、アメリカの例によって、よくわかりました。

「だから、ぼくはいつも技術者になるんだといっているのに、みんながわらうんだもの。」

と、自動車にむちゅうの文六がいいました。今度はだれもわらわず、文六に同情しました。

「食料を外国から輸入しても、日本では、やはり米や野菜を作らなければならぬでしょう。ぼくは、農業も重大だと思ふ。あの資料の中に、黒人の科学者で、ピーナツツから、百七十種の製品を作った人がいたでしょう。コーヒー、バタ、ミルク、チーズの代用品や、食用油、ソース、インキ、せっけん、染料せん料なんかね。ぼくは百姓になって、いつしようにけんめい働くから、孝一君は科学者になって、新しいものをたくさん作るのだね。」

と、三吉がいいました。三吉は、カーバー先生のことを考えていたのです。先生は、黒人の学校に教え、まずしい人たちを助け、よい生活ができるようにしました。志を立て、努力すれば、どんなこんなにも、うちかつこ

とができる、先生はいわれたのです。

「やっぱり、小川博士のいつた心がまえと努力だね。」  
と、武がいました。

小川博士は、「君たちに大きな期待をかけている。」といました。六年B組の子どもたちは、大きな責任を感じています。

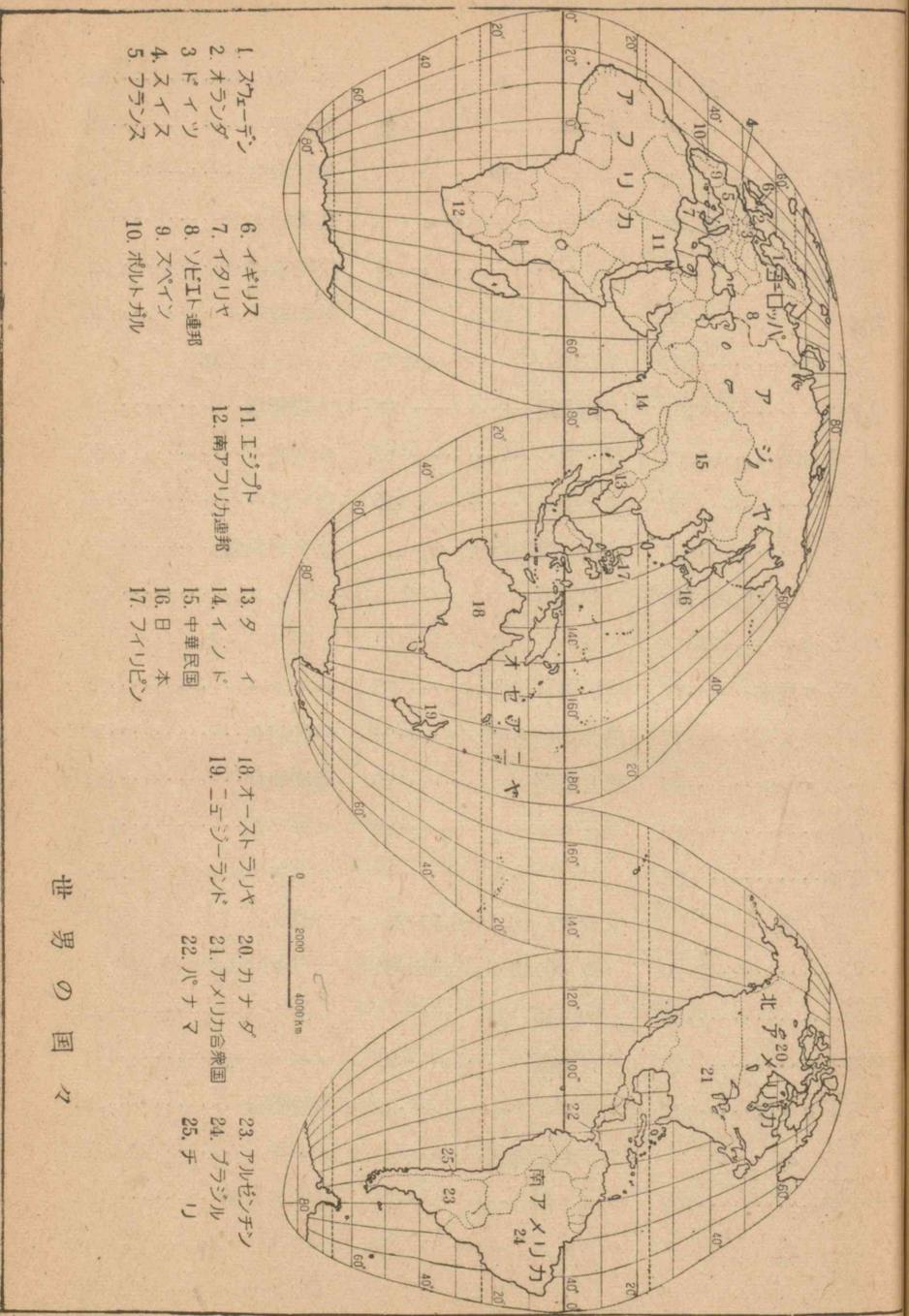
司会者の孝一は、こういいました。

「日本の将来は明かるいといいますが、明かるい希望の国をつくるのは、ぼくたちの責任です。アメリカや、イギリスや、スイスの人たちの例にならつて、住みいい、平和な世界をつくるために、きょうから、ぼくたちは勇気を出して、働くことにしましょう。」  
みんな、手をたたいて賛成しました。

#### 調査と研究

- (1) みなさんの地方で、外国へ行ってきた人がありますか。もしあったら、その人を招いて、外国の風習その他について、たずねてみましょう。(七時のニュース)
- (2) 世界地図をかいで、小川博士の通った道順を書き入れましょう。(同じ)
- (3) 「世界一周すごろく」「世界産物分布図」などを作って、おもしろく勉強になるしかたを考えましょう。(同じ)
- (4) 日本と西洋との交際はいつごろ始まったか、今日までの歴史をしらべて、かんたんな年表を作って、いろいろな組で話し合ひましょう。(太平洋をこえて)
- (5) ハワイに日本人がたくさん住んでいるのは、どうしてでしょう。(同じ)
- (6) ワシントンやリンカーンなどの伝記をよんで、アメリカの国がらについて考えましょう。(新大陸から)
- (7) エジソン、フォードなどの作りあげたいろいろのものについてしらべて、組で発表しましょう。(同じ)
- (8) 「日本の子どもとアメリカの子ども」という題で、作文を書いてみましょう。(アメリカの子ども)
- (9) 外国の子どもたちと通信する方法をしらべ、おたがいに通信し合ひましょう。また、おたがいの凶画や、作文などを交換し合ひましょう。(同じ)
- (10) みなさんの地方に、公共図書館がありますか。その設備、仕組み、蔵書数、また、それがどんな人々に利用されているかなどについて、しらべてみましょう。(同じ)
- (11) 「ハル・ハウス」の物語りを読んで、どんな感想をもちましたか。「少年の町」のフラナガン神父の話なども考え合せて、みんなで話し合ひましょう。(よい隣人)
- (12) みなさんの地方にある、子どものためのいろいろの施設(少年映画館、少年文化会館、スポーツセンター、子

- (13) どものひろばなどをあけて、アメリカのそれと比べてみましょう。(同じ)  
ニューヨーク市の地下施設についてしらべ、日本の都市のどんなところを改良したら、もっとよくなるかみんなで話し合い、みなさんの都市計画を作ってみましょう。(ニューヨーク研究報告会)
- (14) 交通の発達につれて、日本とアメリカのきょうりがどんなにちぢめられたか、実際の年代順にしたがってしらべてみましょう。(同じ)
- (15) 「ニューヨークからロンドンへ」という紙芝居を作ってみましょう。(同じ)
- (16) 小泉八雲、クラークなど、日本の国に関係の深い外国人の物語りを読んでみましょう。(同じ)
- (17) 「英語」が、ひろく世界の国々で使われるようになったのはなぜか、みんなで考えてみましょう。(世界の議会の母)
- (18) ヘルン通信を読んで、スイスの国の観光のことをしらべ、わが国のそうしたことについて、話し合ひましょう。(同じ)
- (19) 世界の国々の国旗を作り、その由来をしらべて、組で発表し合ひましょう。(平和な国)
- (20) 青少年赤十字、万国赤十字の起こりや歴史についてしらべ、それが世界において、どんな活動をしているかしらべましょう。(同じ)
- (21) 中国と日本とは、むかしからどんな関係があったか、年表を作りましょう。(日本の将来)
- (22) オリンピック大会などの、スポーツによる世界の国々とのつながりについて、考えてみましょう。(同じ)
- (23) ノーベルの伝記についてしらべ、紙芝居に作って発表しましょう。(同じ)
- (24) 外国の事を書いた本、新聞、絵、写真などがあつたら、なるべくたくさん集めて、展らん会や、けんとう会を開きましょう。(同じ)



- 1. アメリカ
- 2. カナダ
- 3. アルバニア
- 4. ユーロパ
- 5. アフリカ
- 6. アジア
- 7. オーストラリア
- 8. ヴェネチア
- 9. スペイン
- 10. ポルトガル
- 11. エジプト
- 12. 南アフリカ
- 13. タンザニア
- 14. インド
- 15. 中華民国
- 16. 日本
- 17. フィリピン
- 18. オーストラリア
- 19. ニュージーランド
- 20. カナダ
- 21. アメリカ合衆国
- 22. パナマ
- 23. アルゼンチン
- 24. ブラジル
- 25. チリ

8, 30-34, 36-43, 46-8, 53-65  
 ニュース通信社……20  
 ニューヨーク(市)……10-1  
 80, 108-14, 123-4, 127, 131  
 ニューヨーク・タイムズ……59

**ね**  
 ネルソン……50, 53  
 年刊……29  
 年鑑……29  
 年報……29

**の**  
 農業……31, 77, 145  
 農産物……84  
 農場……85  
 農村……83  
 ノーベル賞……11, 32  
 ノーベル物理学賞……11, 107  
 ノーベル平和賞……107

**は**  
 配給……15, 30  
 配給制度……130  
 バイナップル……76  
 幕府……25  
 博物館……132

バーヂニヤ……100  
 バタビヤ新聞……25  
 発行部数……26, 53, 60  
 放送部……39  
 ハドソン川……113, 125  
 バーネバー・ブッシュ……144  
 羽田……67, 71, 74  
 ハル・ハウス……104, 106  
 ハワイ(島)……71, 74-8  
 バンアメリカン航空会社……71, 73  
 版木……23  
 バンフレット……75

**ひ**  
 飛行機……66, 73, 75, 78-82  
 131  
 飛行場……73  
 美術館……78, 111, 114, 127  
 132  
 美術展覧会……61  
 百科辞書……89  
 病院……81, 115, 117, 143  
 ビルマ……14

**ふ**  
 フィラデルフィヤ・ガゼット……24  
 フィリピン人……77

フォード工場……108  
 福井……45  
 福岡……15  
 複式交通……115  
 武家政府……140  
 物質文明……90  
 婦人議員……131  
 婦人新聞……31  
 フランス……23  
 プログラム……21, 103  
 文化都市……83, 123, 132  
 分離器……120

**へ**  
 ペリー提督……25  
 ベルン……65-6, 132, 136  
 弁護士……77  
 ベンジャミン・フランクリン……24  
 編集局……35, 37-8  
 編集室……10-1  
 編集長……51

**ほ**  
 ボイラー……121  
 貿易……55  
 貿易会社……93  
 貿易港……82  
 放送……21, 43-6

放送局……41, 44  
 放送番組……46  
 報知新聞……26  
 報道……15, 17, 22, 26, 28  
 -9, 45, 47  
 北海道……34  
 牧場……87  
 牧畜業……137  
 保健衛生会議……65, 67  
 保守的……30  
 ボストン市……24  
 ホテル……83, 92, 133  
 32, 107  
 ホノルル市……74, 78  
 ボリネシヤ民族……77  
 ボルトガル人……77  
 ホレーヌ・マン……97  
 ほん訳係……72  
 ほん訳部……36

**も**  
 木版……23

**や**  
 ヤンキー・スタジヤム……114

**ゆ**  
 夕刊……29, 45  
 夕刊配達……93  
 U P……33  
 ゆう便局……115  
 湯川(秀樹)博士……11-4, 32, 107

**よ**  
 横浜毎日新聞……25  
 読売かわら版……24  
 読売新聞……26  
 ヨーロッパ……36

**ら**  
 ラジオ……12, 14-6, 21-2, 27, 40, 42-5, 47, 65, 91, 99, 118, 121  
 ラジオ劇……43  
 ラジオシティー……13  
 ラジオ受信機……41  
 ラジオ信号……71  
 ラジオニュース……22

**り**  
 料金……51  
 旅客機……73  
 旅行案内……73  
 理論物理学……11  
 臨時放送……21  
 輪転機……26

**れ**  
 冷蔵貨車……84  
 冷凍業……84  
 冷房……118  
 歴史博物館……114  
 レティス……83

**ろ**  
 ロイター……33  
 労働組合……36  
 労働時間……107  
 ロシヤ系……114  
 ロスアンゼルス(市)……82, 91  
 ロックフェラー・セクター……115  
 ローマ……131  
 論説委員……48  
 ロンドン……20, 127  
 ロンドン橋……127

**わ**  
 ワシントン……55, 79

町……19-20  
 摩天楼……88  
 万朝報……26  
 マンハッタン区……112

**み**  
 民主主義……102

**む**  
 村……19

信号……………18  
 診察料……………49  
 進歩的……………30  
 新聞……………11-2,14-7,21  
 -33,36,39,41-2,44-53,  
 58-60,67-8,117  
 新聞王国……………24  
 新聞記者……………12,16,56  
 新聞紙……………57  
 新聞社……………10,32-5,37,39,  
 45,50,60-2  
 新聞使用量……………58  
 新聞配達……………95  
 診療所……………61  
 スポーツ放送……………42  
 隅田川……………127  
 税金……………19,101  
 政経部……………36  
 政治家……………27  
 政党……………30  
 政府……………18-9,36,140,144  
 精密機械……………136  
 整理部員……………38-9  
 セオドル・ルーズベル  
 ト……………56-7  
 世界……………23,33,57,77-8,  
 141-2,147  
 世界一周旅行……………73  
 世界戦争……………107  
 セクォイヤ国立公園……………86  
 せんい工場……………136  
 選挙……………34  
 全国紙……………31  
 専門学校……………85  
 染料……………145  
 総督……………100  
 速達……………115  
 測候所……………75  
 ソビエト……………33  
 ソールトレーキ……………87  
 大英博物館……………127  
 大学……………78,81  
 耐火建築……………103  
 第三高等学校……………12  
 大西洋……………113  
 第二放送……………42  
 太平洋……………14,73,80  
 ダイヤル……………42-3  
 托児所……………61  
 タス……………33  
 ダム……………87,99  
 タワー橋……………127  
 暖房装置……………121,125  
 地下室……………120  
 地下組織……………124  
 地下鉄……………110,125  
 チーズ……………137  
 地凶……………65,78-9,82,86  
 地方紙……………31  
 地方版……………37  
 茶……………142  
 中央……………33  
 中央停車場……………40  
 中間子……………13

中継放送……………45  
 中国……………33,139-140  
 中国人……………77,114  
 中部平原……………49,54  
 町会……………19  
 朝刊(紙)……………14,24,29,45  
 朝刊新聞……………68  
 調節器……………118  
 賃金……………107  
 通信……………19-20,90,141  
 通信員……………34,37  
 通信社……………32-3  
 通信線……………17  
 通信部……………37  
 通信網……………23,33  
 津田寅次郎……………26  
 DC 6……………82  
 鉄筋コンクリート……………88  
 鉄道……………79  
 デトロイト市……………45,108  
 手旗信号……………18  
 テームズ川……………127-8  
 テレビジョン……………13-4,22,  
 95,117  
 電気……………50  
 電気さらあらい器……………120  
 電気せんたく器……………91,120  
 電気そうじき……………91  
 電気モーター……………99  
 天気予報……………14,30,42-3,71  
 電気冷蔵庫……………91  
 電車……………133  
 伝せん病……………19  
 電送……………34  
 電送写真……………35  
 電燈……………34  
 電波……………41  
 電報……………26,35  
 電話……………10-1,34,37,67,  
 91,117  
 ドイツ……………23  
 ドイツ系……………114  
 東亜部……………36  
 統計表……………123  
 東京(都)……………10-1,31,41,  
 110,127,131  
 東京中央郵便局……………109  
 東京日日新聞……………25-6  
 動物園……………115  
 東洋……………82  
 都会版……………31  
 特殊新聞……………31  
 特派員……………33  
 特別急行列車二十世紀  
 号……………108  
 特別電報通信……………32  
 時計……………44,136-7  
 時計じかけ……………119  
 都市計画……………115  
 図書館……………45-6,78,103,11  
 1,114  
 図書室……………49,106  
 トーテムポール……………88  
 トーマス・エジソン……………  
 45-6,123-4  
 トーマス・ストーン……………51  
 トラック……………34,39  
 トンネル……………125  
 内閣……………34,36  
 ナイヤガラ滝……………109  
 南北アメリカ……………36  
 日曜版……………59  
 日刊新聞……………16,25,30  
 日本銀行……………36  
 日本放送協会……………21  
 ニュース……………10,17-22,25-

海外特派員……………<sup>かんじよう</sup>環状がた交叉……………115  
 ……69,72,112,143 関東……………34  
 外国通信社……………35 　　　　　　き  
 開拓者……………52 生糸……………142  
 街頭録音……………42 気送管……………125  
 外米……………15 機械……………14,22,75,142  
 下院議長……………55-6,129 機械作業……………84  
 化学肥料……………75 季刊……………29  
 書留……………115 機関紙……………31  
 学生討論会……………61 記事……………16,25,30,36  
 火事……………17-8,25 議事堂……………100  
 果実園……………87 記者……………33-7  
 ガス……………50 汽車……………34-5,43,45,79-  
 ガス会社……………117 80,82,87  
 ガソリン……………74 寄宿舎……………106  
 学校放送……………43 技術者……………144  
 活字……………17,21,23,25,39 北九州……………14  
 神奈川県……………31 教育委員……………85  
 神奈川版……………31 競技場……………42  
 カフェテリア式……………101 京都……………12  
 カメラ……………38 共同……………33  
 カメラマン……………38 共同生活……………96,139  
 カリフォルニア州……………84 業務局……………35  
 観光国……………133,136 漁業……………76-7  
 観光事業……………142 漁夫……………77  
 カンザス(州)……………49,54-5 銀行家……………104  
 ガンザス・シティー……………50-1 金属製……………23

金門湾……………80  
 く  
 薬代……………49  
 グーテンベルク……………23  
 組合……………29,31  
 グランド・セントラル  
 停車場……………125  
 クローバーがた交叉……………115  
 け  
 経済安定本部……………36  
<sup>けいさつしよ</sup>警察署……………36  
<sup>けいしちよう</sup>警視庁……………36  
 消印……………109  
 下水……………124,143  
 けっかく療養所……………91  
 月刊……………29  
 原子時代……………129  
 原始社会……………18  
 原稿……………38  
 健康相談……………43  
 検察庁……………36  
 こ  
 公安委員……………85  
 講演会……………61  
 号外……………37,45  
 公共事業……………50  
 公共図書館……………102-3  
 航空便……………74,115  
 航空路……………74,78  
 広告……………59-60  
 広告料金……………60  
 工場……………39,83  
 高声器……………43  
 厚生次官……………67  
 厚生施設……………67  
 厚生省……………65  
 高速度輸転機……………39  
 交通……………90,111  
 交通事故……………17  
 公立学校……………115  
 国会……………17,30,36  
 黒人……………114,145  
 米……………14  
 コロンビア大学……………11,115  
 コロンビア地区……………79  
 さ  
 財政……………17,100  
 作業室……………99  
 サクラメント市……………85  
<sup>さつし</sup>雑誌……………25,29,58,98,117  
 さとうきび……………76  
 沙漠……………87  
 産業……………29  
<sup>さんきんこうたい</sup>参勤交代……………20  
 さんご礁……………75  
 サンフランシスコ……………  
 ……80-3,91-2  
 し  
 ジェーン・アダムズ……………  
 ……104-8,144  
 司会者……………142,146  
 紫外線のランプ……………121  
 シカゴ市……………  
 ……82,97-8,103,105,108  
 時間表……………73  
 四十八州……………79  
<sup>じつきよう</sup>実況放送……………21  
 実験室……………49  
 自転車……………95  
 自動車……………  
 ……86-7,91,108,116,145  
 自動車交通……………115  
 自動調理器……………119  
 時報……………44  
 社会……………16,21,30,33  
 社会科……………69  
 社会改革者……………50  
 社会部……………36-47  
 社会面……………50  
 社会問題……………36,48  
 ジャカルタ号……………14  
 市役所……………36  
 写真……………12,34-5,111  
 写真部員……………38  
 社説……………25,27,30,48  
 週刊……………29  
 週刊新聞……………24  
 集団生活……………138  
 自由の女神……………110,112  
 修理工場……………86  
 受信機……………42  
 ジュネーブ湖……………137  
 主筆……………50  
<sup>じゆんかん</sup>旬刊……………29  
 小学校……………12,98,117  
 商業……………77  
 商業広告放送……………46  
 商品……………32  
 情報……………45  
 消防署……………37  
 植物園……………115  
 植民地……………100  
 植民地会議……………100  
 食用油……………145  
 食料大臣……………131  
 植林……………137  
 ジョージ・ワシントン  
 橋……………114

社会科編修委員会

坂西志保  
 (本巻執筆担当)  
 勝田守一  
 友野代三  
 井上 勉  
 服部直人  
 副島民雄  
 宮下三七男  
 装釘 白崎海紀, ほか  
 挿画 牛 筐 忠

感謝  
 本書の編さんにあたっては各方面各地方多数の方々の御協力を得ました。まず、大石謙、丹治守雄、山崎巳代治、吉野正男、塩谷軍児の諸氏には実際指導の立場から種々の実験、調査、検討をわざわざされました。史料編纂所岡田章雄、地理調査所岡山俊雄両氏からは資料の方面の指導を受け、おかげで資料の正確を期することができました。本社社会科懸賞募集に協力された全国多数の方々からも得る所が少なくありませんでした。なお、第四学年以上の書に掲げた資料のうち、その選定、提供、校閲等をわざわざした中で、特に多大のお手数をかけたのは左記の方面であります。  
 農林省、運輸省、厚生省、郵政省、通商産業省、東京大学史料編纂所、建設省地理調査所、日本銀行、東京中央放送局、日本新聞協会、共同通信社、USIS、CIE図書室。記して謝意を表します。

Approved by Ministry of Education (Date May 1950)

小学生の社会 6年上  
 世界をつなぐもの

昭和25年5月27日印刷  
 昭和25年5月31日発行  
 (昭和25年 月 日 文部省検定済)

小社606

著者 日本書籍社会科編修委員会  
 代表者 坂西志保  
 発行者 日本書籍株式会社  
 代表者 木村淵之助  
 東京都文京区久堅町108番地  
 印刷者 日本書籍株式会社  
 代表者 木村淵之助  
 東京都文京区久堅町108番地

発行所 東京都文京区久堅町108番地 日本書籍株式会社

〒

おもなことから

あ	イタリヤ……………132	えい画けき場……………115
朝日新聞……………26	イタリヤ系……………114	えい画評……………30
アジア……………36,140	一方交通……………115	英国議会議事堂……………128
アドビー……………88	移民……………77,85,106	衛生試験所……………81
アナウンサー……………41	印刷……………23,26,39,50	衛生設備……………90
あまがさき 尼崎……………11	印刷局……………35,39	A P……………11,32-3
アメリカ……………14,18,22	印刷術……………18	駅……………20,29,35
24,33,46,49,50,55,58	インディヤン……………18,88,113	駅伝……………20
75,77-8, 81-3, 88-92,	う	江戸……………20
96-8, 101-2, 107,112,	ウィリヤム・アレン	江戸時代……………20
122-3,144,146,148	ホワット……………49-57	NBC……………13
アメリカ大陸……………24,79	ウィリヤム・バーグ……………100	エムバイヤー・ステー
アメリカの聖人……………108	ウインストン・チャーチ	ト・ビルジング……………110,114
アラスカ……………131	ル……………129	エムボリヤ……………49,52,57
アリューシャン群島……………131	ウェーク島……………74-5	エムボリヤ・ガゼット
アール川……………132	ウェストミンスター橋	紙……………52-3,55,57
アルプス……………137	……………127	エムボリヤ大学……………49
アンソニー・イーデン……………129	ウェストミンスター寺	エレベーター……………125
アンドリュー・カーネ	院……………128	エンジン……………73
ギー……………102-3	ウェストミンスターの	お
い	広場……………128	おお 大阪……………11-2,14
イギリス……………20,23,33,	浦 賀……………25	おらべ 欧米部……………35
58,100,128-131,146,	運動部……………37	オ克兰ド……………80
医者……………49,77,139	え	音楽会……………61
イースト川……………113	えい画……………30,42	か



# 世界をつなぐもの

広島大学図書

010130449992



日本書籍株式会社

庫  
50  
992